

小学校外国語活動における  
評価方法等の工夫のための参考資料

平成23年11月

国立教育政策研究所  
教育課程研究センター



## 小学校外国語活動における評価方法等の工夫のための参考資料

### はじめに

平成20年3月に告示された小学校学習指導要領は、平成23年度から全面実施されています。

新しい学習指導要領のねらいを実現するためには、各学校における児童や地域の実態等に応じた適切な教育課程の編成・実施、指導方法等の工夫が重要です。また、学習指導要領に示す内容が児童一人一人に確実に身に付いているかどうかを適切に評価し、その後の学習指導の改善に生かしていくとともに学校の教育活動全体の改善に結び付けていくことが重要です。

この新しい学習指導要領の下での学習評価については、平成22年3月の中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会報告では、目標に準拠した評価を着実に実施することとされています。また、同年5月の文部科学省初等中等教育局長通知「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」では、観点別学習状況の評価の観点とその趣旨等が示されています。

国立教育政策研究所教育課程研究センターでは、この報告や通知を受け、評価規準、評価方法等の工夫改善に関する調査研究等を行い、本資料を作成しました。

本資料は、各学校において外国語活動における学習評価を進める際の参考として役立てていただくことを目的として、評価方法等の工夫改善例を示しています。

各学校におかれては、本資料や都道府県教育委員会等が示す評価に関する資料を参考としながら、評価規準の設定、評価方法等の工夫改善を図り、新しい学習指導要領の下での外国語活動における学習評価を適切に行うことを期待します。

最後に、本調査研究協力者の方々をはじめとして本書の作成にご協力くださった方々に心から感謝の意を表します。

平成23年11月

国立教育政策研究所  
教育課程研究センター長  
神代 浩



## 目次

第1編 総説	1
第1章 学習評価の在り方について	3
1 新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方	
2 新学習指導要領の下での指導要録における観点別学習状況，評定，特別活動及び外国語活動の記録	
第2章 評価規準の設定等について	7
1 評価規準の設定について	
第3章 評価方法等の工夫改善について（第2編関係）	9
1 評価方法の工夫改善について	
2 評価時期等の工夫について	
3 各学校における指導と評価の工夫改善について	
4 事例の特徴	
第2編 評価に関する事例	19
1 評価を行うに当たって	
2 事例の活用	
3 各事例のポイント	
事例1 「英語ノート2」Lesson5を題材に単元計画を設定した場合	24
事例2 「英語ノート2」Lesson5[本単元のねらい・目標・内容]を基に単元計画を設定した場合	33
事例3 「英語ノート1」Lesson6とLesson9とを題材に単元計画を設定した場合	38
事例4 「英語ノート」を活用せず，独自に単元計画を設定した場合	43
(参考資料)	47
1 小学校外国語活動における評価方法等の工夫に関する調査研究について（平成22年7月7日，国立教育政策研究所長裁定）	
2 小学校外国語活動における評価方法等の工夫に関する調査研究協力者	
1 小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（平成22年5月11日付け文部科学省初等中等教育局長通知）（抄）	
※本冊子では、改訂後の常用漢字表（平成22年11月30日内閣告示）に基づいて表記しています。（学習指導要領及び初等中等教育局長通知等の引用部分を除く）	



# 第 1 編

## 総説



# 第1編 総説

## 第1章 学習評価の在り方について

### 1 新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

平成20年に告示された学習指導要領（以下「新学習指導要領」という。）の下で行われる学習評価について、平成22年3月に中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会報告「児童生徒の学習評価の在り方について」（以下「報告」という。）がとりまとめられた。

- 【報告で示された学習評価の改善に係る3つの基本的な考え方】 -----
- 目標に準拠した評価による観点別学習状況の評価や評定の着実な実施
  - 学力の重要な要素を示した新学習指導要領等の趣旨の反映
  - 学校や設置者の創意工夫を生かす現場主義を重視した学習評価の推進

※報告の全文は、文部科学省ホームページに掲載

([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/attach/1292216.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/attach/1292216.htm))

新学習指導要領の下での学習評価については、児童の「生きる力」の育成を目指し、児童一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況をみる評価を着実に実施し、児童一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し、学習指導の改善に生かすことが重要であるとともに、学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが重要である。

また、今回の観点別学習状況の評価の改善は、特に、学力の重要な要素を示した新学習指導要領等の趣旨の反映と関連している。

学校教育法の一部改正を受けて改訂された新学習指導要領の総則に示された学力の3つの要素を踏まえて、評価の観点に関する考え方が整理された結果、これまでの観点の構成と比べると、「思考・判断」が「思考・判断・表現」となり、「技能・表現」が「技能」として設定されることとなった。

さらに、各学校や設置者の創意工夫を一層生かしていくことが求められており、各学校では、組織的な取組を推進し、学習評価の妥当性、信頼性等を高めることが重要である。

## 2 新学習指導要領の下での指導要録における観点別学習状況，評定，特別活動及び外国語活動の記録

文部科学省は，新学習指導要領の下での指導要録の作成の参考となるよう，平成22年5月11日付けで文部科学省初等中等教育局長通知「小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」（以下「改善通知」という。）を発出した。

この改善通知では，報告を受け，各設置者による指導要録の様式の決定や各学校における指導要録の作成の参考となるよう，学習評価を行うに当たっての配慮事項，小学校，中学校ごとに各教科の学習の記録，特別活動及び外国語活動の記録など各欄の記入方法等を示すとともに，各学校における指導要録の作成に当たっての配慮事項等を示している。

### 【改善通知の主な内容】

#### (1) 学習評価の改善に関する基本的な考え方について

学習評価を通じて，学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること，学校における教育活動を組織として改善することが重要であり，新学習指導要領の下での学習評価の改善を図っていくためには以下の基本的な考え方に沿って学習評価を行うことが必要である。

- ① きめの細かな指導の充実や児童生徒一人一人の学習の確実な定着を図るため，学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況の評価する，目標に準拠した評価を引き続き着実に実施すること。
- ② 新学習指導要領の趣旨や改善事項等を学習評価において適切に反映すること。
- ③ 学校や設置者の創意工夫を一層生かすこと。

#### (2) 学習評価における観点について

新学習指導要領を踏まえ，「関心・意欲・態度」，「思考・判断・表現」，「技能」及び「知識・理解」に評価の観点を整理し，各教科の特性に応じて観点を示しており，設置者や学校においては，これに基づく適切な観点を設定する必要がある。

改善通知に示された評価の観心の趣旨については以下のように整理することができる。

##### ① 「関心・意欲・態度」

「関心・意欲・態度」の観点は，これまでと同様，各教科の学習に即した関心や意欲，学習への態度等を対象としたものであり，その趣旨に変更はない。

##### ② 「思考・判断・表現」

「思考・判断・表現」の観点のうち「表現」については，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，各教科の内容に即して考えたり，判断したりしたことを，児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味している。

つまり「表現」とは，これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく，思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて児童生徒がどのよ

うに表出しているかを内容としている。

③「技能」

「技能」の観点では、従前の「技能・表現」が対象としていた内容を引き継ぐことになる。これまで「技能・表現」については、例えば社会科では資料から情報を収集・選択して、読み取ったりする「技能」と、それらを用いて図表や作品などにまとめたりする際の「表現」とをまとめて「技能・表現」として評価してきた。

今回の改訂で設定された「技能」については、これまで「技能・表現」として評価されていた「表現」をも含む観点として設定されることとなった。

④「知識・理解」

「知識・理解」の観点は、これまでと同様、各教科において習得した知識や重要な概念を理解しているかどうかを内容としたものであり、その趣旨に変更はない。

改善通知においては、各設置者が観点を設定する際に参考となるよう、各教科の評価の観点及びその趣旨並びにそれらを学年別（又は分野別）に示したものを提示している。観点及びその趣旨等は、これまでと同様、各学校における評価規準の工夫・改善を図る際にも参考となるものである。

(3) 観点別学習状況及び評定の記入方法について

改善通知に示された小学校児童指導要録における観点別学習状況及び評定の記入方法は、次のとおりである。

【小学校児童指導要録】

[各教科の学習の記録]

I 観点別学習状況

新学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し、次のように区別して記入する。

「十分満足できる」状況と判断されるもの : A

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの : B

「努力を要する」状況と判断されるもの : C

II 評定（第3学年以上）

新学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を総括的に評価し、次のように区別して記入する。

「十分満足できる」状況と判断されるもの : 3

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの : 2

「努力を要する」状況と判断されるもの : 1

(4) 特別活動について

改善通知には、学習指導要領の目標及び特別活動の特質等に沿って、各学校において評価の観点を定めることができるようにすることとし、各活動・学校行事ごとに評価することが示されている。

また、特別活動の記録の記入方法は、各学校が自ら定めた特別活動全体に係る評価の観点を記入した上で、各活動・学校行事ごとに、評価の観点に照らして十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入することが示されている。

(5) 外国語活動について

改善通知では、評価の観点を記入した上で、それらの観点に照らして、児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で記述することが示されている。

※改善通知は、本資料末尾の参考資料及び文部科学省ホームページに掲載  
([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/nc/1292898.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1292898.htm))

これらを踏まえ、本センターでは、各学校における児童の学習の効果的・効率的な評価に資するため、平成22年5月から評価規準、評価方法等の工夫改善に関する調査研究を行い、同年11月に「評価規準の作成のための参考資料」を、平成23年3月に「評価方法等の工夫改善のための参考資料」をとりまとめた。

## 第2章 評価規準の設定等について

### 1 評価規準の設定について

各学校における観点別学習状況の評価が効果的に行われるようにするため、各教科の評価の観点及びその趣旨を参考として、評価規準の工夫・改善を図ることが重要である。

学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施するためには、各教科の目標だけでなく、領域や内容項目レベルの学習指導のねらいが明確になっている必要がある。そして、学習指導のねらいが児童の学習状況として実現されたというのは、どのような状態になっているかが具体的に想定されている必要がある。

このような状況を具体的に示したものが評価規準であり、各学校において設定するものである。

各学校において、学習評価を行うために評価規準を設定することは、児童の学習状況を判断する際の見安が明らかになり、指導と評価を着実に実施することにつながる。

また、学習評価の工夫改善を進めるに当たっては、学習評価をその後の学習指導の改善に生かすとともに、学校における教育活動全体の改善に結び付けることが重要である。その際、学習指導の過程や学習の結果を継続的、総合的に把握することが必要である。

そのためには、評価規準を適切に設定するとともに、評価方法の工夫改善を進めること、評価結果について教師同士で検討すること、実践事例を着実に継承していくこと、授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に、校長のリーダーシップの下で、学校として、組織的・計画的に取り組むことが必要である。

一方、年間指導計画を検討する際、それぞれの単元（題材）において、観点別学習状況の評価に係る最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要である。これにより、評価すべき点を見落としていないかを確認するだけでなく、必要以上に評価機会を設けることで評価資料の収集・分析に多大な時間を要するような事態を防ぐことができ、各学校において効果的・効率的な学習評価を行うことにつながると考えられる。

文部省指導資料から、評価規準について解説した部分を参考として紹介する。

### (参考) 評価規準の設定 (抄)

(文部省「小学校教育課程一般指導資料」(平成5年9月)より)

新しい指導要録(平成3年改訂)では、観点別学習状況の評価が効果的に行われるようにするために、「各観点ごとに学年ごとの評価規準を設定するなどの工夫を行うこと」と示されています。

これまでの指導要録においても、観点別学習状況の評価を適切に行うため、「観点の趣旨を学年別に具体化することなどについて工夫を加えることが望ましいこと」とされており、教育委員会や学校では目標の達成の度合いを判断するための基準や尺度などの設定について研究が行われてきました。

しかし、それらは、ともすれば知識・理解の評価が中心になりがちであり、また「目標を十分達成(+)」、「目標をおおむね達成(空欄)」及び「達成が不十分(-)」ごとに詳細にわたって設定され、結果としてそれを単に数量的に処理することに陥りがちであったとの指摘がありました。

今回の改訂においては、学習指導要領が目指す学力観に立った教育の実践に役立つようにすることを改訂方針の一つとして掲げ、各教科の目標に照らしてその実現の状況进行评估する観点別学習状況を各教科の学習の評価の基本に据えることとしました。したがって、評価の観点についても、学習指導要領に示す目標との関連を密にして設けられています。

このように、学習指導要領が目指す学力観に立つ教育と指導要録における評価とは一体のものであるとの考え方に立って、各教科の目標の実現の状況を「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現(又は技能)」及び「知識・理解」の観点ごとに適切に評価するため、「評価規準を設定する」ことを明確に示しているものです。

「評価規準」という用語については、先に述べたように、新しい学力観に立って子供たちが自ら獲得し身に付けた資質や能力の質的な面、すなわち、学習指導要領の目標に基づく幅のある資質や能力の育成の実現状況の評価を目指すという意味から用いたものです。

## 第3章 評価方法等の工夫改善について（第2編関係）

### 1 評価方法の工夫改善について

各学校では、各教科の学習活動の特質、評価の観点や評価規準、評価の場面や児童の発達段階に応じて、観察、児童との対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、面接などの様々な評価方法の中から、その場面における児童の学習の状況を的確に評価できる方法を選択していくことが必要である。上記のような評価方法に加えて、児童による自己評価や児童同士の相互評価を工夫することも考えられる。

評価を適切に行うという点のみでいえば、できるだけ多様な評価を行い、多くの情報を得ることが重要であるが、他方、このことにより評価に追われてしまえば、十分に指導ができなくなるおそれがある。児童の学習状況を適切に評価し、その評価を指導に生かす点に留意する必要がある。

なお、ペーパーテストは、評価方法の一つとして有効であるが、ペーパーテストにおいて得られる結果が、目標に準拠した評価における学習状況の全てを表すものではないことについては、改めて認識する必要がある。

そこで、例えば、ワークシート等への記述内容は、「知識・理解」の評価だけでなく、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」の評価にも活用することが可能であり、児童の資質や能力を多面的に把握できるように工夫し、活用することが考えられる。

### 2 評価時期等の工夫について

報告では、評価時期に関して、以下の2点について述べられている。

- ・授業改善のための評価は日常的に行われることが重要である。一方で、指導後の児童の状況を記録するための評価を行う際には、単元等のある程度長い区切りの中で適切に設定した時期において「おおむね満足できる」状況等にあるかどうかを評価することが求められる。
- ・「関心・意欲・態度」については、表面的な状況のみに着目することにならないよう留意するとともに、教科の特性や学習指導の内容等も踏まえつつ、ある程度長い区切りの中で適切な頻度で「おおむね満足できる」状況等にあるかどうかを評価するなどの工夫を行うことも重要である。

各学校で年間指導計画を検討する際、それぞれの単元（題材）において、観点別学習状況の評価に係る最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要である。これにより、評価すべき点を見落としていないかを確認す

るだけでなく、必要以上に評価機会を設けて評価資料の収集・分析に多大な時間を要するような事態を防ぐことができ、各学校において効果的・効率的な学習評価を行うことにつながると考えられる。

### 3 各学校における指導と評価の工夫改善について

#### (1) 指導と評価の一体化

新学習指導要領は、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力、判断力、表現力等をバランスよく育てることを重視している。各教科の指導に当たっては、児童の主体的な活動を生かしながら、目標の確実な実現を目指す指導の在り方が求められる。

このバランスのとれた学力を育成するためには、学習指導の改善を進めると同時に、学習評価においては、観点の評価をバランスよく実施することが必要である。

さらに、学習評価の工夫改善を進めるに当たっては、学習評価をその後の学習指導の改善に生かすとともに、学校における教育活動全体の改善に結び付けることが重要である。その際、学習指導の過程や学習の結果を継続的、総合的に把握することが必要である。

各学校では、児童の学習状況を適切に評価し、評価を指導の改善に生かすという視点を一層重視し、教師が指導の過程や評価方法を見直して、より効果的な指導が行えるよう指導の在り方について工夫改善を図っていくことが重要である。

#### (2) 学習評価の妥当性、信頼性等

報告では、各学校や設置者の創意工夫を生かし、現場主義を重視した学習評価として、各学校では、組織的・計画的な取組を推進し、学習評価の妥当性、信頼性等を高めるよう努めることが重要であるとされている。ここでいう学習評価の「妥当性」は、評価結果が評価の対象である資質や能力を適切に反映しているものであることを示す概念とされている。

この「妥当性」を確保していくためには、評価結果と評価しようとした目標の間に適切な関連があること（学習評価が学習指導の目標に対応するものとして行われていること）、評価方法が評価の対象である資質や能力を適切に把握するものとしてふさわしいものであること等が求められるとされている。

また、改善通知では、学校や設置者において、学習評価の妥当性、信頼性等を高める取組が求められている。

妥当性、信頼性等を高めるためには、各学校において、次のような取組が有効と考えられる。

まず、学習評価を進めるに当たっては、指導の目標及び内容と対応した

形で評価規準を設定することや評価方法を工夫する必要がある。

特に、評価方法を検討する際には、評価の観点で示される資質や能力等  
を評価するのにふさわしい方法を選択することが、評価の妥当性、信頼性  
等を高めることになる。

また、評価方法を評価規準と組み合わせて設定することが必要であり、  
評価規準と対応するように評価方法を準備することによって、評価方法の  
妥当性、信頼性等が高まるものと考えられる。

### (3) 学校全体としての組織的・計画的な取組

学習評価の工夫改善を進めるに当たっては、評価規準を適切に設定する  
とともに、評価方法の工夫改善を進めること、評価結果について教師同士  
で検討すること、授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること  
等について、校長のリーダーシップの下、学校として、組織的・計画的に  
取り組むことが必要である。

#### ①教師の共通理解と力量の向上

学校全体として評価についての力量を高めるためには、学校としての  
評価の方針、方法、体制、結果などについて、校長のリーダーシップの  
下、日頃から教師間の共通理解を図る必要がある。このように、評価に  
関する情報の共有や交換により、経験年数等に左右されず教師が共通の  
認識をもって評価に当たることができるようにすることが重要である。

さらに、複数の教師で、どのように学習評価を進めれば指導に生かす  
評価の充実が図れるのか、教師にとって過大な負担とならないかなどに  
ついて確認し合うことが、効果的で効率的な評価を行うことにつながる。

以上のことを学校として組織的に実施するために、校内研究・研修の  
在り方を一層工夫する必要がある。

その上で、これまでの実践の蓄積を生かしていくことが大切であり、  
学校として組織的・計画的に取り組むことが、評価の妥当性、信頼性等  
を高めることになる。

#### ②保護者や児童への情報の提供

改善通知では、保護者や児童に対して、学習評価に関する仕組み等  
について事前に説明したり、評価結果の説明を充実したりするなどして学  
習評価に関する情報をより積極的に提供することも重要とされている。

どのような評価規準、評価方法により評価を行ったのかといった情報  
を保護者や児童に分かりやすく説明し、共通理解を図ることが重要とな  
る。信頼される評価を行うためには、評価が目的に応じて、保護者や児  
童などの関係者の間でおおむね妥当であると判断できるものであること  
も重要な意味をもつ。

## 4 事例の特徴

### (1) 各教科の事例について

#### ①単元（題材）の評価に関する事例の提示

本資料では、原則として、教科ごとに4事例（体育は6事例）を提示している。

事例の提示に当たっては、以下の5点に留意した。

- 1) 事例1は、1単元（題材）における指導と評価の計画を示しながら、当該教科での各観点の特徴を踏まえた評価の留意点を説明している。
- 2) 「単元（題材）の評価規準」などを示すとともに、それらがどの「評価規準に盛り込むべき事項」や「評価規準の設定例」を参考に設定されたかが分かるようにしている。
- 3) 「指導と評価の計画」の中に、当該単元（題材）において、どのような評価方法を選択し、組み合わせたかが分かるようにするとともに、教科により、必要に応じて、ワークシートや作品などの評価方法として活用したものを資料として提示したり、具体的に工夫した点についての説明を加えたりして、多様な方法を紹介している。
- 4) 「おおむね満足できる」状況、「十分満足できる」状況、「努力を要する」状況と判断した児童の具体的な状況の例などを示している。特に、「十分満足できる」状況という評価になるのは、児童が実現している学習の状況が質的な高まりや深まりをもっていると判断されるときであるが、それは具体的にはどのような状況であるかを示している。また、「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立てや働きかけを示したり、「努力を要する」状況に至ることのないよう配慮した点を示している。
- 5) 当該単元（題材）において、観点ごとにどのような総括を行ったのかについて、その考え方や具体例などを示している。

#### ②効果的・効率的な評価

ある単元（題材）において、あまりにも多くの評価規準を設定したり、多くの評価方法を組み合わせたりすることは、評価を行うこと自体が大きな負担となり、その結果を後の学習指導の改善に生かすことも十分でなくなるおそれがある。例えば、1単位時間の中で4つの観点全てについて評価規準を設定し、その全てを評価し学習指導の改善に生かしていくことは現実的には困難であると考えられる。教師が無理なく児童の学習状況を的確に評価できるように評価規準を設定し、評価方法を選択することが必要である。

また、評価の実践を踏まえ、必要に応じて評価規準や評価方法について検討し、見直しを行っていくことも効果的である。

本資料では、教科ごとに複数の事例を紹介しているが、効果的・効率的な評価を進めるうえで参考となるよう以下の3点に配慮した。

- 1) 評価結果を記録する機会を過度に設定することのないよう、各観点で1単元(題材)内で平均すると1単位時間当たり1～2回の評価回数となるよう指導と評価の計画を示した。
- 2) ノートやレポート、ワークシート、作品など、授業後に教師が確認しながら評価を行えるような方法と、授業中の見取りを適切に組み合わせ、全員の学習状況を適切に見取りつつ、それぞれの児童の特性にも配慮した評価方法が採用できるよう配慮した。
- 3) 評価が円滑に実施できていないと教師が捉えている観点をはじめとして、それぞれの観点において、どのような児童の姿や記述等を評価対象とすればよいかを明確に示した。

### ③総括

観点別学習状況の評価を総括する時期を、単元末、学期末、学年末とした場合、どの段階で、どの評価情報に基づいて総括するかによって、結果に違いが生じることも考えられる。(例えば、学年末に総括する際、単元末の評価結果を年間を通して総括するか、一度学期ごとに総括した評価結果から総括するかで結果が異なる場合もあり得る。)

また、評価情報の蓄積の方法は、次のようなものが考えられる。

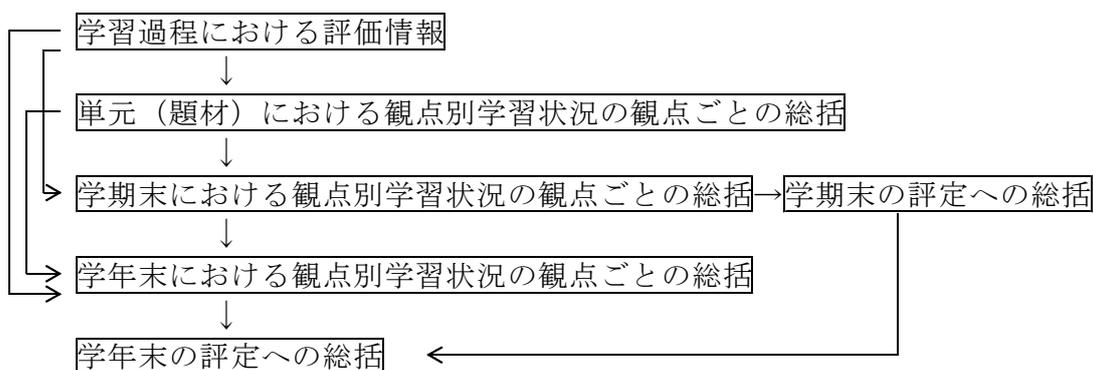
- ・評価のA, B, Cを蓄積する方法

学習活動に即した評価規準を観点ごとに設け、「十分満足できる」状況と判断されるものをA, 「おおむね満足できる」状況と判断されるものをB, 「努力を要する」状況と判断されるものをCなどのようにアルファベットや記号で記録し、その結果を蓄積していく方法で、総括においてはA, B, Cの数を基に判断することになる。

- ・評価を数値で表して蓄積する方法

学習の実現状況を数値で表したものを蓄積していく方法である。例えば、A=3, B=2, C=1というように数値で表し、蓄積する。総括の際は、蓄積した数値の合計点や平均値などを用いることになる。

観点別学習状況の評価の観点ごとの総括の他、評定への総括は、学期末や学年末などに行うことが考えられる。具体的な総括の流れとしては、以下の図に示したように、いくつかの例が考えられる。



## 1) 観点別学習状況の評価の観点ごとの総括

単元(題材)における観点ごとの総括は、教科ごとに事例の中でも取り上げている。学期末や学年末における観点ごとの評価の総括、評定への総括は、「学習評価の工夫改善に関する調査研究」(平成16年3月、国立教育政策研究所)を基に考え方を示している。

なお、各学校における総括の具体的な考え方や方法等は、これらを参考にしつつ、より一層工夫していくことが必要である。

### ア 単元(題材)における観点ごとの評価の総括

単元(題材)においては、学習過程における評価情報を観点ごとに総括する。観点ごとの評価記録が複数ある場合の総括の方法としては、次のようなものが考えられる。

#### (ア) 評価結果のA, B, Cの数

ある観点でいくつかのまとまりごとに何回か行った評価結果のA, B, Cの数が多いものが、その観点の学習の実現状況を最もよく表しているとする考え方に立つ総括方法である。例えば、3回評価を行った結果が「ABB」ならばBと総括する。なお、「AABB」の総括結果をAとするかBとするかなど、同数の場合や3つの記号が混在する場合の総括の仕方をあらかじめ決めておく必要がある。

#### (イ) 評価結果のA, B, Cを数値に表す

ある観点でいくつかのまとまりごとに何回か行った評価結果A, B, Cを、例えば、 $A=3$ ,  $B=2$ ,  $C=1$ のように数値によって表して、合計したり、平均したりすることで総括する方法である。例えば、総括の結果をBとする判断の基準を $[1.5 \leq \text{平均値} \leq 2.5]$ とすると、「ABB」の平均値は、約 $2.3[(3+2+2) \div 3]$ で総括結果はBとなる。

このほか、本資料では、観点によって特定の評価機会における結果について重み付けした例なども紹介している。

### イ 学期末における観点ごとの評価の総括

学期末における観点ごとの評価の総括は、単元(題材)ごとに総括した観点ごとの評価結果を基に行う場合と、学習過程における評価情報から総括する場合が考えられる。

なお、総括の方法は、ア(ア)及び(イ)と同様であると考えられる。

### ウ 学年末における観点ごとの評価の総括

学年末における観点ごとの総括については、学期末に総括した観点ごとの評価結果を基に行う場合と、単元(題材)ごとに総括した観点ごとの評価結果を基に行う場合などが考えられる。

なお、総括の方法は、ア(ア)及び(イ)と同様であると考えられる。

## 2) 観点別学習状況の評価の評定への総括

評定が学習指導要領に示す各教科の目標に照らして学習の実現状況を総括的に評価するものであるのに対し、観点別学習状況は学習指導要領に示す各教科の目標に照らして学習の実現状況を分析的に評価するものであり、観点別学習状況の評価が評定を行うための基本的な要素となる。

なお、評定への総括の場面は、学期末や学年末などに行われることが多い。学年末に評定へ総括する場合には、学期末に総括した評定の結果を基にする場合と、学年末に観点ごとに総括した評価の結果を基にする場合が考えられる。

観点別学習状況の評価の評定への総括は、各観点の評価結果をA, B, Cの組合せ、又は、A, B, Cを数値で表したものに基づいて総括し、その結果を小学校では3段階で表す。

A, B, Cの組合せから評定に総括する場合、各観点とも同じ評価がそろう場合は、小学校については、「AAAA」であれば3、「BBBB」であれば2、「CCCC」であれば1とするのが適当であると考えられる。それ以外の場合は、各観点のA, B, Cの数の組合せから適切に評定する必要がある。

なお、観点別学習状況の評価結果はA, B, Cなどで表されるが、そこで表された学習の実現状況には幅があるため、機械的に評定を算出することは適当ではない場合も予想される。

また、評定は3, 2, 1という数値で表されるが、これを児童の学習の実現状況を3つに分類したものとして捉えるのではなく、常にこの結果の背景にある児童の具体的な学習の実現状況を思い描き、適切に捉えることが大切である。

評定への総括に当たっては、このようなことも十分に検討する必要がある。

そして、評価に対する妥当性、信頼性等を高めるために、各学校では観点別学習状況の評価の観点ごとの総括及び評定への総括の考え方や方法について共通理解を図り、児童及び保護者に十分説明し理解を得ることが大切である。

## (2) 特別活動の事例について

特別活動は、各教科と異なり、全校又は学年を単位として行う活動があり、また、学級担任以外の教師が指導することが多い。

このため、参考資料（特別活動編）においては、学習指導要領に示された活動ごとに工夫 例を交えながら評価の進め方や留意点等について記述している。特に、指導と評価の計画例では、改善通知で示されている評価の観点や、第2編で示している「評価規準に盛り込むべき事項」を活用している。

## (3) 外国語活動の事例について

学習評価及び指導要録の改善通知では、外国語活動の記録について、「評価の観点を記入した上で、それらの観点到照らして、児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で記述する」ことが示されている。また、評価の観点については、設置者は、小学校学習指導要領等に示す外国語活動の目標を踏まえ、同通知を参考に設定すること、各学校において観点到追加して記入できるようにすることが示されている。

これを踏まえて、各学校における評価の観点到照らした学習評価の円滑な実施に資するため、本センターでは、小学校外国語活動における評価方法等の工夫に関する調査研究を行い、その成果をとりまとめた。

ここでは、外国語活動の学習評価を行う際の留意点のほかに、「英語ノート」（平成21～23年度文部科学省配布）を活用した事例や、「英語ノート」を活用しない事例を紹介している。

## 第2編

### 評価に関する事例



## 第2編 評価に関する事例

### 1 評価を行うに当たって

#### (1) 基本的な在り方

外国語活動の評価については、設置者において、学習指導要領の目標及び具体的な活動等に沿って評価の観点を設定することとし、文章の記述による評価を行う。

#### (2) 評価の観点の考え方

学習指導要領に外国語活動の目標・内容が設定されたこと、及び、中・高等学校における外国語科との連続性に配慮して、学校の設置者が外国語活動の評価の観点を設定する。評価の観点を設定する際には、平成22年5月の初等中等教育局長通知「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」（以降、「通知」と呼ぶ。）において例示された外国語活動の評価の観点を参考に、学習指導要領に示された外国語活動の目標を踏まえることが大切である。また、各学校が、各学校の実態に応じて指導内容や活動を設定することから、学習指導要領に示された目標等を踏まえて各学校において観点を追加することができる。

なお、外国語活動の記録に当たっては、設定された観点到照らして、児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等、児童にどのような力が付いたかを文章で記述する。

#### (3) 評価規準の設定における考え方

観点別学習状況の評価を効果的に行うために、外国語活動においても、単元や各時間の目標に照らして評価規準を設定することが考えられる。これを設定することで、指導者が授業の中で求める児童の具体的な姿とともに、どう指導すればよいか明確になる。また、児童に各単元や授業のめあてを提示することで、児童にとって各単元、各授業等でどのような力を付けるのかが明確になり、授業に意欲的に取り組む契機となる。

そこで、評価規準を設定する際に、例えば、「通知」において例示された以下の三つの評価の観点到沿って、次のようなことに留意することが大切である。

##### 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

本観点的趣旨は、「コミュニケーションに関心をもち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする」であることから、児童がコミュニケーション活動を行う中で、相手意識をもってコミュニケーションを図っている行動を捉えるようにすることが大切である。

##### 【外国語への慣れ親しみ】

本観点的趣旨は、「活動で用いている外国語を聞いたり話したりしながら、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる」であることから、単元に設定されている様々な活動の中で、その単元で使用するよう設定されている外国語を聞いたり話したりしている児童の行動を捉えるようにすることが大切である。

##### 【言語や文化に関する気付き】

本観点的趣旨は、「外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、言葉の面白さや豊かさ、多様なものの見方や考え方があることなどに気付いている」であることから、例えば単元で使用するよう設定されている外国語と日本語と

の比較などを通して発見した言語の共通性や相違性から言葉の面白さや豊かさ、多様なものの見方等に気付いている様子を捉えるようにすることが大切である。

## 2 事例の活用

各校において評価規準を設定する際に、各校の実態に合わせて参考となるよう以下のような事例を提示することにした。

移行期間において、ほとんどの学校が外国語活動を実施し、その実施時数も半数以上が年間35時間を設定している。全国連合小学校長会「平成21年度 研究紀要」（平成22年2月）によると、「英語ノート・指導資料」を活用している学校は82.6%であり、多くの学校が、授業を進める際に「英語ノート」（平成21～23年度文部科学省配布）を何らかの形で活用しているという現状を踏まえ、「英語ノート」を基に3事例を紹介する。また、研究開発学校や教育課程特例校等では、「英語ノート」を基としない年間指導計画を立てている場合もあることから、独自に開発した単元1事例を紹介する。

## 3 各事例のポイント

### **事例1** 「英語ノート2」Lesson 5を題材に単元計画を設定した場合

本事例では、「英語ノート」の一単元を題材に、学校の実態に合わせて、そのねらい、単元の目標・内容を設定している。設定した目標に照らして、どのように単元の評価規準、各時間の評価規準を設定するかを示した例である。ここでは、「英語ノート2」Lesson 5「道案内をしよう」を題材としている。

本事例では、単元目標を、外国語活動の目標に設定されている三つの柱をまとめ、一文で示している。なお、事例中の「指導と評価の計画」の「目標・活動」で二重下線のある活動は、「英語ノート」では扱われていない独自のものである。

各時間の指導案では、評価の方法として「振り返りカード」に関して、「点検」と「分析」を提示している。「点検」とは、「振り返りカード」に記載された児童の自己評価が、指導者の見取りと違った場合、次時の授業で児童の自己評価内容を指導に生かすことなどを指している。例えば、【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】の観点において、「振り返りカード」で児童は友だちとコミュニケーションが行えていないと自己評価しているが、指導者の見取りでは友だちと積極的にコミュニケーションを行っていると判断した場合は、次時にその児童に自信をもたせたり、認めたりするような声かけをすることで、コミュニケーションへの自信をもたせることが大切である。「分析」とは、授業中の児童の行動観察だけでは見取れない場合、「振り返りカード」に記載されている内容を分析し、児童の様子を捉えるようにすることを指している。例えば、【言語や文化に関する気付き】の観点において、「振り返りカード」に言語や文化に関する気付きの項目を立て、授業中における言語や文化に関する気付きの児童の発言以外に、記載内容から児童の様々な気付きを分析するようにする。

**事例2** 「英語ノート2 指導資料」Lesson 5 [単元のねらい・目標・内容] を基に  
単元計画を設定した場合

本事例では、「英語ノート 指導資料」に記載されている単元のねらいと目標、内容を基に、どのように単元の評価規準や、各時間の目標・評価規準を設定するかを示した例である。ここでも、「英語ノート2」Lesson 5「道案内をしよう」を題材としている。

なお、本事例では、「英語ノート2 指導資料」の通り、単元目標を、外国語活動の目標に設定されている三つの柱に沿って、細かく設定している。

**事例3** 「英語ノート1」Lesson 6 と Lesson 9 とを題材に単元計画を設定した場合

本事例では、「英語ノート」の二単元を組み合わせで一単元とし、単元のねらいと目標、内容を設定している。そして、目標に照らして単元の評価規準を設定している。ここでは、「英語ノート1」Lesson 6「外来語を知ろう」とLesson 9「ランチ・メニューを作ろう」とを題材としている。

なお、本事例では、単元目標を、外国語活動の目標に設定されている三つの柱に沿って、細かく設定している。また、各時間に設定されている活動に合わせて設定した評価規準をそのまま単元の評価規準としている。事例中の「指導と評価の計画」の「目標・活動」で二重下線のある活動は、「英語ノート」では扱われていない独自のものを示している。

**事例4** 「英語ノート」を活用せず、独自に単元計画を設定した場合

本事例では、学校の実態に合わせて「英語ノート」を活用せず、外国語活動の経験が豊富な児童を対象に独自に単元を設定している。単元目標を、外国語活動の目標に設定されている三つの柱に沿って、細かく設定している。

## 外国語活動 事例1 「英語ノート2」Lesson 5を題材に単元計画を設定した場合

単元名 道案内をしよう

### 本単元のねらい

本単元では、方向や建物を表す表現などを使って道案内する場面が取り上げられている。方向を表す表現や建物等は、児童が日常生活でよく聞いたり言ったりするものであり、実際に日常生活で児童は、行き方等を尋ねられたり、あるものの場所を尋ねたりしているため、道案内の場面は児童にとって身近であると思われる。また、実際の道案内の場面では、見知らぬ者どうしがある場所までの行き方を尋ねたり教えたりすることが多い。そこで、道案内を取り上げている本単元では、見知らぬ人に声をかけ尋ねたり、相手に教えたりする際には、互いに気持ちよくコミュニケーションを図るために気を付けるべきこと、また、正しく指示を出してコミュニケーションを図ることの大切さに気付かせることをねらいとし、実際に児童に道案内を体験させる。さらに、外来語で表されている建物とその基となる英語の違いを取り上げることで、児童に言葉の面白さに気付かせる。

### 単元目標

英語と日本語とでは、建物の表し方が違うことに気づき、進んで気持ちよく目的地への行き方を尋ねたり道案内をしたりしようとする。

### 本単元の内容

- 1 主としてコミュニケーションに関すること
  - ・友だちと英語で道案内をする楽しさを体験すること。
  - ・積極的に道案内をし合うこと。
  - ・正しく指示をして、コミュニケーションを図る大切さを知ること。
- 2 主として言語や文化に関すること
  - ・道案内を通して、英語の音声やリズムに慣れ親しむこと。
  - ・外来語とその基となる英語との違いを知り、言葉の面白さに気付くこと。
  - ・道案内を通して、気持ちよいやりとりをするための言葉の使い方を知ること。

### 単元の評価規準

観点ごとに指導者が授業の中で求める  
児童の具体の姿に書き表す

#### 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- ・目的地やその行き方が相手に伝わるように工夫して尋ねたり案内したりしている。

#### 【外国語への慣れ親しみ】

- ・目的地への行き方を尋ねたり言ったりしている。

#### 【言語や文化に関する気付き】

- ・英語と日本語とでは、建物の表し方が違うこととともに、頼む時やそれに応える気持ちのよいやり取りの仕方に気付いている。

指導と評価の計画（時間配分 4 時間）

時	目標・活動	評価				
		コ	慣	気	評価規準	評価方法
1	<p>建物などの英語での言い方を知り、英語と日本語とではその表し方が違うことに気付く。</p> <p><u>建物クイズ</u> 評価する活動のところに○を付ける</p> <p>Let's Play 1 おはじきゲーム</p> <p>Let's Play 2 ① 指差しゲーム</p> <p><u>ステレオ・ゲーム</u></p>				<p>行動観察だけでは見取り切れないため、振り返りカードに記載された児童の気付きを分析し、評価記録の対象とする</p> <p>単元の評価規準のうち【言語や文化に関する気付き】の観点の評価規準を、活動に合わせて書く</p> <p>・英語と日本語とでは、建物の表し方が違うことに気付いている。</p>	<p>行動観察・振り返りカード分析</p>
2	<p>建物などの英語での言い方に慣れ親しみ、方向や動きを指示する表現を知る。</p> <p>Let's Play 2 ② 指差し指差しゲーム</p> <p><u>シャッフル・ゲーム</u></p> <p>Let's Play サイモン・セズ・ゲーム</p> <p>Let's Chant ♪ Where is the station? ♪</p> <p>Let's Listen 絵カードを置いて、地図を完成する。</p>				<p>単元の評価規準のうち【外国語への慣れ親しみ】の観点の評価規準を、活動に合わせて書く</p> <p>・建物などの英語を聞いたり言ったりしている。</p> <p>・建物などの英語を聞いたり言ったりしている。</p>	<p>行動観察・振り返りカード点検</p> <p>行動観察・振り返りカード点検</p>
3	<p>目的地への行き方を尋ねたり、方向や動きを指示したりする表現に慣れ親しむ。</p> <p>Let's Chant ♪ Where is the station? ♪</p> <p>Let's Play サイモン・セズ・ゲーム</p> <p>Let's Listen 到着場所を聞き取る。</p> <p>Activity ペアで情報を伝えながら友だちと同じ町を作る。</p>				<p>単元の評価規準のうち【外国語への慣れ親しみ】の観点の評価規準を、活動に合わせて書く</p> <p>・方向や動きを指示する表現を聞いたり言ったりしている。</p> <p>・目的地への行き方を尋ねたり、方向や動きを指示したりする表現を聞いたり言ったりしている。</p>	<p>行動観察・英語ノート点検・振り返りカード点検</p> <p>行動観察・振り返りカード点検</p>
4	<p>気持ちのよいやり取りに気付いて、進んで目的地への行き方を尋ねたり案内したりしようとする。</p> <p>Let's Chant ♪ Where is the station? ♪</p> <p>Activity 1 グループで道案内をする。</p> <p>Activity 2 ペアで道案内をする。</p>				<p>単元の評価規準のうち【言語や文化に関する気付き】の観点の評価規準を、活動に合わせて書く</p> <p>・頼む時やそれに応える気持ちのよいやり取りの仕方に気付いている。</p> <p>・目的地やその行き方が相手に伝わるように工夫して尋ねたり言ったりしている。</p>	<p>行動観察・振り返りカード分析</p> <p>行動観察・振り返りカード点検</p>

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】については、授業中の児童の行動観察によって評価することを基本とし、振り返りカードに記載された児童の自己評価の内容を次時の指導に生かす

第1時

目標：建物などの英語での言い方を知り、英語と日本語とではその表し方が違うことに気付く。

過程	児童の活動	学級担任の活動	ALTの活動	・指導上の留意点 ◎ 評価規準<評価方法> 【評価の観点】 ◆ 国際理解の視点
挨拶	・挨拶をする。 Hello. I'm good/ fine/sleepy/hungry. ・めあてをたてる。	・全体に挨拶をした後、数名の児童と挨拶をする。 Hello, how are you? ・建物絵カードなどを見せながら、本時のめあてを示し興味をもたせる。		・これから授業が始まることを意識させるように、指導者は元氣よく挨拶をする。
	町の建物の言い方で、英語と日本語との違いを知ろう。		本時のめあてを児童に知らせる	
導入	・絵カードの一部を見て、それが何かを答える。 花 Flower. Flower shop. デパート デパートshopかな。	・建物クイズをする。町中の建物絵カードの一部を見せ、それが何かを尋ねる。 What's this? Yes, flowers. It's a flower shop. What's this? Yes. デパート。 But not "depart" in English. Department store. 活動のねらいを達成するための手立てを書く		・絵カードの一部を見せ、それが何かを児童に推測させることにより、児童に興味をもって答えさせるようにする。その際、建物の英語での言い方を推測させ、外来語とその基となる英語とでは言い方が違うことに気付かせるようにする。 ◎英語と日本語とでは、建物の表し方が違うことに気付いている。【気】<行動観察・振り返りカード分析>
展開	【Let's Play 1】 ・ゲームのやり方を知り、おはじきゲームをする。	・おはじきゲームのやり方を説明する。 ①英語ノート p. 30, 31の町中の建物から五つを選んで、その上におはじきを一つずつ置く。 ②指導者やCDが言う建物の単語の上におはじきを置いていたら取る。 ③おはじきがなくなったら、Finished!と言う。		・おはじきがない場合は、建物に鉛筆などで直接印を付けさせてもよい。 ・時間の都合に合わせて、おはじきの数を三個などに減らしてもよい。 ・児童の様子を見ながら、指導者は単語を繰り返し発音し、児童に単語を何度も聞かせるようにする。
展開	【Let's Play 2】 ・ゲームのやり方を知り、ペアで指差しゲームをする。	・指差しゲームのやり方を説明する。 ①ペアになり、二人の間に一冊の英語ノートp. 30, 31を開けて置く。 ②指導者やCDが言う町中の建物の単語を聞いて、それを指差す。 ③早く指差しした方が1ポイントもらう。 授業中の行動観察だけでは見取れなかった児童については、振り返りカードに記載された児童の気付きを分析する		・この活動を通して、町中にある建物の単語を何度も聞かせ、英語と日本語とでは言い方が違うことにさらに気付くようにするとともに、児童にこれらの単語に慣れさせるようにする。 ・児童の様子を見ながら、指導者は単語を繰り返し発音し、児童に単語を何度も聞かせるようにする。
展開	・ゲームのやり方を知り、ステレオ・ゲームをする。	・ステレオ・ゲームをすることを告げる。 ①指名された数名の児童が前に出る。 ②それぞれが建物絵カードを一枚選ぶ。 ③前に出た児童は一斉に自分の持っている建物絵カードの英語を言う。 ④他の児童は、前に出た児童がそれぞれの建物の英語を言ったかをあてる。 Come here. Choose one card, but don't show it to anyone. Listen to the students carefully. What do you hear?		・この活動を通して、町中にある建物の単語を何度も聞かせ、児童にこれらの単語に慣れさせるようにする。 ・児童の様子を見て、前に出す児童の数を増やすとよい。
挨拶	・本時の振り返りをする。 ・挨拶をする。 Good-bye. See you.	・児童の振り返り等について確認をする。 ・挨拶をする。 Good-bye. See you.	・感想を言う。 ・挨拶をする。 Good-bye. See you.	・児童の様子等についてよかったところを具体的に挙げて確認することで、児童の次時への意欲を高めるようにする。

第2時

目標：建物などの英語での言い方に慣れ親しみ、方向や動きを指示する表現を知る。

過程	児童の活動	学級担任の活動	ALTの活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導上の留意点</li> <li>◎ 評価規準&lt;評価方法&gt;</li> <li>【評価の観点】</li> <li>◆ 国際理解の視点</li> </ul>
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 挨拶をする。</li> <li>Hello. I'm good/ fine/sleepy/hungry.</li> <li>・ めあてをたてる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体に挨拶をした後、数名の児童と挨拶をする。</li> <li>Hello, how are you?</li> <li>・ 方向や動きを指示する語彙を用いた活動を通して、様々な建物の言い方に慣れ親しむことを伝える。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これから授業が始まることを意識させるように、指導者は元気よく挨拶をする。</li> </ul>
復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>【Let's Play 2】</li> <li>・ ゲームのやり方を知り、ペアで指差し指差しゲームをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指差し指差しゲームのやり方を説明する。</li> <li>①ペアになり、二人の間に一冊の英語ノートp. 30, 31を開けて置く。</li> <li>②指導者やCDが言う町中の建物の単語を聞いて、それを指差す。</li> <li>③早く指差した方は、その建物などを差した指を動かさず、そのまま差し続ける。</li> <li>④次に言われた建物は違う指で差す。</li> <li>⑤多くの建物を指差している方が勝ちとなる。</li> <li>Now I will say a word and you touch it with your finger. The faster student keeps his/her finger on the picture. You can't move that finger.</li> <li>How many pictures can you touch?</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ この活動を通して、町中にある建物の単語を何度も聞かせ、児童にこれらの単語に慣れさせるようにする。</li> <li>・ 児童の様子を見ながら、指導者はテンポよく単語を発音し、児童にできるだけ何度も単語を聞かせるようにする。</li> </ul> <div data-bbox="1059 965 1433 1111" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>振り返りカードを点検し、児童の自己評価と指導者の見取りに違いがあれば、次時の指導に生かす</p> </div>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゲームのやり方を知り、ゲームをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ シャッフル・ゲームのやり方を説明する。</li> <li>②□物絵カードを、児童と確認しながら黒板に五枚並べる。</li> <li>②児童がそれぞれの絵カードが何か分かったら、それぞれを裏に向ける。</li> <li>③児童に見えるように二枚のカードの位置を替え、それぞれが何の建物かを尋ねる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ この活動を通して、町中にある建物を言わせるようにする。</li> <li>・ 児童が慣れてきたら、位置を替える回数を増やす。</li> </ul> <div data-bbox="1059 1335 1458 1440" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>◎建物などの英語を聞いたり言ったりしている。【慣】&lt;行動観察・振り返りカード点検&gt;</p> </div>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>【Let's Play】</li> <li>・ ゲームのやり方を知り、ゲームをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サイモン・セズ・ゲームをすることを告げる。</li> <li>Let's play "Simon Says."</li> <li>「どうしてだめなのかな。」</li> <li>~ sensei, once more please.</li> <li>「なるほどね、わかった。」</li> <li>「〇〇先生の言葉に気を付けて聞いてごらん。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゲームの仕方をやりながら説明する。</li> <li>If I say, "Simon says," copy me. For example, Simon says, "Stand up."</li> <li>OK, good. Simon says, "Turn round."</li> <li>Very good.</li> <li>But if I don't say, "Simon says", don't copy me.</li> <li>For example, "Turn round."</li> <li>No. Don't turn round.</li> <li>OK, very good.</li> <li>Let's start.</li> <li>Turn right/left.</li> <li>Walk/Run/Stop.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童はこのゲームをすでに知っている場合もあるが、やりながら児童にやり方を十分に理解させるようにする。</li> <li>児童に、Simon saysを付けて言った場合と付けない場合によって、指示された動作をするかしないかに気付かせるように、学級担任が日本語で「どうして、だめなのかな」「〇〇先生の言葉に気を付けてもう一度聞いてみよう」などと声をかけ、児童にルールに気付かせるようにする。</li> <li>・ 実際に動作をさせることにより、児童に動作とそれを表す表現とを結び付けさせるようにする。</li> </ul>

展開	<p>【Let's Chant】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャンツを言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャンツ “Where is the station?”を紹介する。ジェスチャーを付け、建物絵カードを示しながら一緒にチャンツを言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者は、Where?の部分では、片手を額にかざして、探しているジェスチャーをし、Go straight. Turn left/right. の部分では、実際にまっすぐ進んだり、左（右）に曲がったりしてみせることにより、児童にチャンツの内容を理解させるようにする。</li> </ul>
展開	<p>【Let's Listen】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末絵カードを切り取る。</li> <li>・英語ノートp. 32, 33を開け、ALTあるいはCDの指示に従って地図上で進み、空き地に巻末絵カードを置く。</li> </ul>	<p>【Let's Listen】 をすることを告げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備の指示をする。</li> </ul> <p>①巻末建物絵カードを切り取る。</p> <p>②英語ノートp. 32, 33を開け、ALTあるいはCDの指示に従って地図上で進み、空き地に建物絵カードを置く。</p> <p>Open your textbook to page 73. You can see many cards. A post office, a bank, a park, a school and so on. Cut out all the pictures.</p> <p>Open your textbook to pages 32 and 33. You can see many empty spaces on the map.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の仕方をデモンストレーションで示す。</li> </ul> <p>H: Now, ~ sensei is in front of the station. Where are you going? Are you going to school? Where is the school?</p> <p>A: Now I'm in front of the station. Can you see the station? That's right. Here it is. Now I'm going to the police box. Listen to me and find the police box. Are you ready? Listen.</p> <p>I'm here. (駅の右通りの健とジュリアのいる場所を指差す。)</p> <p>Go straight.</p> <p>Turn left.</p> <p>Go straight.</p> <p>Go straight and stop.</p> <p>Here is the police box.</p> <p>Put the police box picture card on the map.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この活動は、ALTあるいはCDが説明する行き方を聞いて、児童が目的地の場所を探し当てることがねらいである。そこで、最初は、ALTは口頭のみで行き方を説明する。あるいはCDを聞かせる。次にその答え合わせをする際には、英語ノートp. 32, 33の地図を黒板に描き、建物絵カードを貼り、再度ALTが言う行き方の説明に従って、代表の児童が黒板の地図で磁石のコマを進めながら、行き方、目的地の場所を確認する。</li> <li>・場所を替えて何度も行い、児童の地図から空き地がなくなるようにする。また、指示に慣れてきたら、目的地までの行き方を説明する役を児童にさせてもよい。</li> </ul> <p>◎建物などの英語を聞いたり言ったりしている。【慣】&lt;行動観察・振り返りカード点検&gt;</p>
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の振り返りをする。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul> <p>Good-bye. See you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の振り返り等について確認をする。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul> <p>Good-bye. See you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想を言う。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul> <p>Good-bye. See you.</p>

第3時

目標：目的地への行き方を尋ねたり，方向や動きを指示したりする表現に慣れ親しむ。

過程	児童の活動	学級担任の活動	ALTの活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導上の留意点</li> <li>◎ 評価規準&lt;評価方法&gt;</li> <li>【評価の観点】</li> <li>◆ 国際理解の視点</li> </ul>
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶をする。</li> <li>Hello. I'm good/fine/sleepy/hungry.</li> <li>・めあてをたてる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体に挨拶をした後，数名の児童と挨拶をする。</li> <li>Hello, how are you?</li> <li>・ペアやグループで行きたい目的地まで案内することを伝える。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・これから授業が始まることを意識させるように，指導者は元気よく挨拶をする。</li> </ul>
復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>【Let's Chant】</li> <li>・チャンツを言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャンツ “Where is the station?” を，ジェスチャーを付け，建物絵カードを示しながら一緒に言う。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童がチャンツに慣れてきたら，行き場所を替えることで，飽きずにチャンツが言えるようにする。</li> </ul>
復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>【Let's Play】</li> <li>・ゲームをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サイモン・セズ・ゲームをすることを告げる。</li> <li>Let's play “Simon Says.”</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Simon says, turn right/left.</li> <li>Walk/Run/Stop.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この活動を通して，動作の言い方を思い出させるようにする。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>【Let's Listen】</li> <li>・活動のやり方を理解し，ALTあるいはCDの指示を聞いて，ボブ，麻衣，健，ジュリアがどこに行くかを聞き取り，英語ノートp.31の表の「到着場所」に記入する。</li> <li>・四人の到着場所を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語ノート p. 30, 31 を開け ALT あるいは CD の指示に従ってボブ・麻衣・健・ジュリアが，駅からどこに行くのかを聞き取るように言う。</li> <li>They will go somewhere.</li> <li>Where will they go?</li> <li>To the bank?</li> <li>To the school?</li> <li>Where will they go?</li> <li>Let's listen.</li> <li>・四人それぞれが行く場所を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動のやり方を説明する。</li> <li>Now Bob, Mai, Ken and Julia are in front of the station.</li> <li>Can you find the station?</li> <li>Good. (黒板の地図に，四人のコマを置く)</li> <li>Now listen to me/the CD and find where they will go.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単にやり方を口頭で説明するだけでなく，指導者は，実際に英語ノートの地図を簡単に黒板に描き，建物絵カードをそれに貼り，磁石などを四人に見立てる。そして四人が出発点とする駅を実際に児童に探させたり，そこからどこに行くのか，To the bank?などと具体的にあげたりすることにより，児童にやり方を十分に理解させるようにする。</li> <li>◎方向や動きを指示する表現を聞いたり言ったりしている。【慣】&lt;行動観察・英語ノート点検・振り返りカード点検&gt;</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>【Activity】</li> <li>・ペアになり，相手の道案内を聞いて，相手と同じ町を英語ノートp. 32, 33の地図上に作る。</li> <li>・できあがった町を相手に見せ，同じ町かを確認する。</li> <li>・役割を交代する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【Activity】をすることを告げる。</li> <li>①ペアになり，英語ノート p. 32, 33を開ける。</li> <li>②一人が地図上の空いているところに巻末建物絵カードを好きなように置く。</li> <li>③相手に，駅からスタートして，置いた絵カードの建物までの道案内をし，自分の作った町の様子を知らせる。</li> <li>④もう一人は，それを聞いて，自分の地図上に同じ町を作る。</li> <li>⑤できあがったら相手に地図を見せ，同じ町かを確認する。</li> <li>⑥役割を交代する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Make pairs.</li> <li>Open your textbook to pages 32 and 33. One student puts the building cards on the map and makes a town. Give directions about your town. For example, from the station, go straight.</li> <li>Go straight. Turn right.</li> <li>Go straight. It's a school.</li> <li>Your partner listens to the directions and puts the card on his/her map.</li> <li>When you're finished, check your maps.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者がデモンストレーションでやり方を示し，その際に，Excuse me. Thank you. You're welcome.などを加えて尋ねたり答えたりすることにより，児童にこれらの言葉を添える大切さに気付かせるようにする。</li> <li>・指導者は児童の行動を観察し，活動を途中で止め，これらの声かけを行っているペアに実際に道案内をさせ，どのペアも気持ちいいやり取りができるようにする。</li> <li>・指導者は，児童がペアで活動をしている様子を観察し，道案内や指示に従うのが困難な児童に寄り添い，一緒に道案内をしたり，指示に従ったりする。</li> <li>◎目的地への行き方を尋ねたり，方向や動きを指示したりする表現を聞いたり言ったりしている。【慣】&lt;行動観察・振り返りカード点検&gt;</li> </ul>

挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の振り返りをする。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul> <p>Good-bye. See you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の振り返り等について確認をする。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul> <p>Good-bye. See you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想を言う。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul> <p>Good-bye. See you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の様子等についてよかったところを具体的に挙げて確認することで、児童の次時への意欲を高めるようにする。</li> </ul>
----	---	--	--	---

第4時

目標：気持ちのよいやり取りに気付いて、進んで目的地への行き方を尋ねたり案内したりしようとする。

過程	児童の活動	学級担任の活動	ALT の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導上の留意点</li> <li>◎ 評価規準&lt;評価方法&gt;</li> <li>【評価の観点】</li> <li>◆ 国際理解の視点</li> </ul>
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶をする。</li> <li>Hello. I'm good/ fine/sleepy/hungry.</li> <li>・めあてをたてる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体に挨拶をした後、数名の児童と挨拶をする。</li> <li>Hello, how are you?</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・これから授業が始まることを意識させるように、指導者は元気に挨拶をする。</li> </ul>
復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>【Let's Chant】</li> <li>・チャンツを言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャンツ “Where is the station?” を、ジェスチャーを付け、建物絵カードを示しながら一緒に言う。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的地を替えることにより、児童が飽きずにチャンツが言えるようにする。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>【Activity 1】</li> <li>・グループで道案内をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで道案内をすることを告げる。</li> <li>①児童を4グループに分ける。</li> <li>②教室を四つに分け、各グループで、一つの机を1ブロックに見立てる。机の上に巻末建物絵カードを選んで置き、机を建物に見立てる。</li> <li>③グループ内で順に案内し、終わるたび机の上に置いた巻末建物絵カードを替え、再度案内する。</li> </ul>	<p>Now let's do this in groups. Group one, use these desks. Group two, use these desks. Then put a building card on each desk. One student asks, "Where is ~?" Other students give directions to that place.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机の上の巻末建物絵カードを裏向きに置くなどして、案内してもらう児童に、どの机にどの建物絵カードが置いてあるかを分からないようにすることによって、分からないから案内してもらうというコミュニケーションの場面を設定することができる。</li> <li>・指導者は各グループを見て回り、道案内をしにくそうにしている児童に寄り添い、一緒に道案内をし、十分に案内の仕方に慣れさせるようにする。</li> <li>・案内を頼む際には、Excuse me.と言って声をかけたり、案内をしてもらった後には、Thank you.と言ったりすることで、案内する方も、される方も気持ちよくやり取りできることを児童に体感させるようにする。</li> <li>途中で活動を止め、このような言葉かけを行っているペアを紹介し、どのペアもが気持ちよいやり取りができるようにする。</li> <li>◎頼む時やそれに応える気持ちのよいやり取りの仕方に気付いている。【気】&lt;行動観察・振り返りカード分析&gt;</li> </ul>

展 開	<p><b>【Activity 2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで道案内をする。</li> <li>・ペアになり，順番に相手を目的地に案内する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで，道案内をするように告げる。</li> <li>①教室を町に，机を建物に見立てる。机の上に建物絵カードを置く。</li> <li>②一人がある建物の場所を尋ねる，もう一人がその建物を確認する。</li> <li>③尋ねた児童は，その建物への行き方を案内してもらい，その指示に従って動く。</li> <li>④尋ねた建物に行き着いたら，役割を交代する。</li> </ul>	<p>Look at the desks. They are buildings. I will put a card on each desk. For example, this is a park. This is a bookstore. (公園や書店の絵カードを置いた机を指差しながら)</p> <p>Now one student asks, "Where is the school?"</p> <p>The other student gives directions to the school, such as, "Go straight, turn right, go straight. It's the school."</p> <p>Are you ready?</p> <p>Let's try.</p>	<p>◆今まで学習してきたことを活用して，自分たちで場所を尋ねたり，それに答えたりする活動を通して，言葉で相手に伝えるおもしろさに気付かせる。また，相手に自分の思いを十分に伝えるためにどのようなことに気を付けたらよいかを考えさせることができる。</p>
	<p>Excuse me.</p> <p>Where is the school?</p> <p>Turn right.</p> <p>Go straight.</p> <p>Turn right.</p> <p>Stop.</p> <p>Thank you.</p> <p>You're welcome.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やり方をデモンストレーションで示す。</li> </ul> <p>H: Excuse me, where is the school?</p> <p>A: The school? OK.</p> <p>Go straight. Go straight. Turn right.</p> <p>Go straight.</p> <p>It's the school.</p> <p>H: (ALT の指示に従って，実際に机に沿ってまっすぐ行ったり，曲がったりする) Thank you.</p> <p>A: You're welcome.</p>	<p>目的やその行き方が相手に伝わるような工夫は，児童によって様々である。例えば，ジェスチャーを付ける，相手の言葉を繰り返す，強調して言うなどが考えられる。そこで，児童の様子を観察し，その児童なりの工夫を見取るようにする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者は，この活動のやり方を単に口頭で説明するのではなく，デモンストレーションをしながら説明することにより，どの児童もが理解できるようにする。</li> <li>・指導者は，児童が活動をしている間，個々の児童を見て回り，言いくさそうにしている児童のそばに寄り添い，一緒に行き方を説明したり，行動したりする。</li> <li>・指導者は，ペアが道案内をしている様子をそばで観察し，相手に伝わるように工夫して尋ねたり言ったりしているペアを紹介し，その工夫を全員で共有できるようにする。</li> </ul> <p>◎目的地やその行き方が相手に伝わるように工夫して尋ねたり言ったりしている。【コ】&lt;行動観察・振り返りカード点検&gt;</p>
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の振り返りをする。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul> <p>Good-bye.</p> <p>See you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の振り返り等について確認をする。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul> <p>Good-bye. See you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想を言う。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul> <p>Good-bye. See you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の様子等についてよかったところを具体的に挙げて確認することで，児童の次時への意欲を高めるようにする。</li> </ul>

振り返りカードを点検し，児童の自己評価と指導者の見取りに違いがあれば，次時の指導に生かす

## 外国語活動 事例2 「英語ノート2」Lesson 5 [本単元のねらい・目標・内容] を基に単元計画を設定した場合

単元名 道案内をしよう

### 本単元のねらい

本単元では、方向を表す表現を使って、道案内を体験する。道案内という活動は、実際には言葉だけで行うのは非常に難しいものである。情報のギャップ（尋ねる側と答える側の情報の差）があるが、目的地へ行きたいという必要性は非常に高いものなので、積極的に児童を参加させることが可能である。

また、日本を訪れる外国人数の増加や外国へ行く日本人数の増加は、実生活においても道を説明したり、尋ねたりという機会の増加を意味している。実生活では、地図上で「ここです」と説明したり、実際に連れて行ったりという行為で、道案内が可能であり、方向を表す表現 **right/left** などは、非常に役立つ表現である。

ここでは、道案内をするに当たり、方向を表す表現に加え、児童の実生活に密着した建物の名前についても体験的に学習する。建物を表す表現は日常生活と深く関わっているため、毎日の生活の中で自然に繰り返し触れることができる題材としても有効である。また、コンビニエンス・ストアやデパートなど、カタカナになっているものを扱うことで、英語と日本語の発音やアクセントとの違いに気付かせることも可能である。

### 単元目標

- 1 英語で道案内することに興味を持つ。
- 2 積極的に道案内しようとする。
- 3 建物の名前や道案内の表現に慣れ親しむ。

### 本単元の内容

- 1 主としてコミュニケーションに関すること
  - ・友だちと英語で道案内をする楽しさを体験すること。
  - ・積極的に道案内し合うこと。
  - ・正しく指示をして、コミュニケーションを図る大切さを知ること。
- 2 主として言語や文化に関すること
  - ・道案内をすることを通して、英語の音声やリズムに慣れ親しむこと。
  - ・道案内の仕方の違いに気付くこと。
  - ・ALTや異文化を持つ人々との道案内を通して、文化に対する理解を深めること。

(本単元のねらい・目標・内容は、「英語ノート2 指導資料」Lesson 5に基づく)

### 単元の評価規準

観点ごとに指導者が授業の中で求める児童の具体的な姿に書き表す

#### 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- ・目的地への行き方が相手に伝わるように工夫して言っている。

#### 【外国語への慣れ親しみ】

- ・建物などの英語を聞いたり言ったりしている。
- ・目的地への行き方を尋ねたり、方向や動きを指示する表現を言ったりしている。

#### 【言語や文化に関する気付き】

- ・英語独特の道案内の仕方に気付いている。

指導と評価の計画（時間配分 4 時間）

時	目標・活動	評価				
		コ	慣	気	評価規準	評価方法
1	<p>町中にある様々な建物などの英語での言い方を知る。</p> <p>建物の絵カードを見てそれが何か答える。</p> <p>Let's Play 1 おはじきゲーム</p> <p>Let's Play 2 ① 指差しゲーム</p> <p>Let's Play 2 ② 指差し指差しゲーム</p>				<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     本時では、原則として評価結果を記録しないが、目標に向けての指導は行う。                 </div>	
2	<p>町中にある様々な建物などの英語での言い方や、方向や動きを指示する表現に慣れ親しみ、英語独特の道案内の仕方に興味をもつ。</p> <p>Let's Play サイモン・セズ・ゲーム</p> <p>Let's Listen 到着場所を聞きとる。</p> <p>Let's Chant ♪ Where is the station? ♪</p> <p>Let's Listen 絵カードを置いて、地図を完成する。</p>			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語独特の道案内の仕方に気付いている。</li> <li>建物などの英語を聞いたり言ったりしている。</li> </ul>	行動観察・振り返りカード分析  行動観察・振り返りカード点検
3	<p>目的地への行き方を尋ねたり、方向や動きを指示したりする表現に慣れ親しむ。</p> <p>Let's Chant ♪ Where is the station? ♪</p> <p>Activity ペアで情報を伝えながら友だちと同じ町を作る。</p> <p>Activity 1 グループで道案内をする。</p>			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>方向や動きを指示する表現を言っている。</li> <li>目的地への行き方を尋ねたり、方向や動きを指示したりする表現を言っている。</li> </ul>	行動観察・振り返りカード点検 行動観察・振り返りカード点検
4	<p>積極的に道案内しようとする。</p> <p>Let's Chant ♪ Where is the station? ♪</p> <p>Activity ペアで情報を伝え合う。</p> <p>Activity 2 ペアで道案内をする。</p>	○		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的地への行き方が相手に伝わるように工夫して言っている。</li> <li>目的地への行き方が相手に伝わるように工夫して言っている。</li> </ul>	行動観察・振り返りカード点検 行動観察・振り返りカード点検

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】  
 については、授業中の児童の行動観察によって評価することを基本とする

第1時

目標：町中にある様々な建物などの英語での言い方を知る。

過程	児童の活動	学級担任の活動	ALTの活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導上の留意点</li> <li>◎ 評価規準&lt;評価方法&gt;</li> <li>【評価の観点】</li> <li>◆ 国際理解の視点</li> </ul>
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶をする。</li> </ul> <p>Hello. (I'm) good/ fine/sleepy/hungry.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体に挨拶をした後、数名の児童と挨拶をする。</li> </ul> <p>Hello, how are you?</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・これから授業が始まることを意識させるように、指導者は元気づく挨拶をする。</li> </ul>
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物絵カードの一部を見て、それが何かを答える。</li> </ul> <p>Flower. Flower shop. Book. Bookstore.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてをたてる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">町中にある建物の言い方を知ろう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町中の建物絵カードの一部を見せ、それが何かを尋ねる。</li> </ul> <p>Look. This is a flower. What shop is this? That's right. This is a flower shop. Next, what's this? Yes, it's a book. What store is this? That's right. This is a bookstore. school, police box, bank, bus stop, hospital, post office, fire station, barbershop, department storeも同様に尋ねて紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のめあてを示し、本時の活動に興味をもたせる。</li> </ul> </p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物絵カードの一部を見せ、それが何かを児童に推測させることにより、児童に興味をもって答えさせるようにする。その際、建物の英語での言い方を推測させ、外来語とその基となる英語とでは言い方が違うことに気付かせるようにする。</li> </ul>
展開	<p>【Let's Play 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームのやり方を知り、おはじきゲームをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おはじきゲームのやり方を説明する。</li> </ul> <p>①英語ノート p. 30, 31 の町中の建物から5つを選んで、その上におはじきを1つずつ置く。</p> <p>②CD や指導者が言う建物の単語の上におはじきを置いていたら取る。</p> <p>③おはじきがなくなったら、Finished!とと言う。</p> <p>Open your textbook to pages 30 and 31. Choose five places and put one <i>ohajiki</i> on each picture. If I say the place, you can take the <i>ohajiki</i> off. When all your <i>ohajiki</i> are off, say, "Finished!"</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・おはじきがない場合は、建物に鉛筆などで直接印を付けさせてもよい。</li> <li>・時間の都合に合わせて、おはじきの数を3個などに減らしてもよい。</li> <li>・この活動を通して、町中にある建物の単語を何度も聞かせ、児童にこれらの単語に慣れさせるようにする。</li> </ul>
展開	<p>【Let's Play 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム①のやり方を知る。</li> <li>・ペアで指差しゲームをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指差しゲームのやり方を説明する。</li> </ul> <p>①ペアになり、2人の間に1冊の英語ノートp. 30, 31を開けて置く。</p> <p>②CDや指導者が言う町中の建物の単語を聞いてそれを指差す。</p> <p>③早く指差しした方が1ポイントもらう。</p> <p>Make pairs. Put a textbook between you and your partner. Look at pages 30 and 31. I will say a word and you point to it. The faster student gets one point. Are you ready? school/ police box/ bank/ bus stop/ flower shop/ hospital/ post office/ fire station/ barbershop/ department store/ restaurant/ bookstore/</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・この活動を通して、町中にある建物の単語を何度も聞かせ、児童にこれらの単語に慣れさせるようにする。</li> <li>・児童の様子を見ながら、指導者はテンポよく単語を発音し、児童にできるだけ何度も単語を聞かせるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">活動のねらいを達成するための手立てを書く</div>
展開	<p>【Let's Play 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム②のやり方を知る。</li> <li>・ペアで指差し指差しゲームをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指差し指差しゲームのやり方を説明する。</li> </ul> <p>①ペアになり、2人の間に1冊の英語ノートp. 30, 31を開けて置く。</p> <p>②CDや指導者が言う町中の建物の単語を聞いて、それを指差す。</p> <p>③早く指差しした方は、その建物などを差した指を動かさず、そのまま差し続ける。</p> <p>④次に言われた建物は違う指で差す。</p> <p>⑤多くの建物を指差している方が勝ちとなる。</p> <p>Now I will say a word and you touch it with your finger. The faster student keeps his/her finger on the picture. You can't move that finger. How many pictures can you touch?</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・この活動を通して、町中にある建物の単語を何度も聞かせ、児童にこれらの単語に慣れさせるようにする。</li> <li>・児童の様子を見ながら、テンポよく指導者は単語を発音していくことにより、児童にできるだけ何度も単語を聞かせるようにする。</li> </ul>
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の振り返りをする。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul> <p>Good-bye. See you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の振り返り等について確認をする。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul> <p>Good-bye. See you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想を言う。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul> <p>Good-bye. See you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の様子等についてよかったところを具体的に挙げて確認することで、児童の次時への意欲を高めるようにする。</li> </ul>

第2時

目標：町中にある様々な建物などの英語での言い方や、方向や動きを指示する表現に慣れ親しみ、英語独特の道案内の仕方に興味をもつ。

過程	児童の活動	学級担任の活動	ALTの活動	・指導上の留意点 ◎ 評価規準<評価方法> ◆ 国際理解の視点
挨拶	・挨拶をする。 Hello. (I'm) good/ fine/sleepy/hungry.	・全体に挨拶をした後、数名の児童と挨拶をする。 Hello, how are you?		・これから授業が始まることを意識させるように、指導者は元氣よく挨拶をする。
導入	<p><b>【Let's Play】</b></p> <p>・ゲームのやり方を知り、ゲームをする。</p> <p>・めあてをたてる。</p> <p><b>道案内の仕方を知ろう。</b></p>	<p>・サイモン・セズ・ゲームをすることを告げる。 Let's play "Simon Says."</p> <p>「どうしてだめなのかな。」 ～ sensei, once more please.</p> <p>「なるほどね、わかった。」 「〇〇先生の言葉に気を付けて聞いてごらん。」</p> <p>・本時のめあてを示し、本時の活動に興味をもたせる。</p>	<p>・ゲームの仕方をやりながら説明する。 If I say, "Simon says," copy me. For example, Simon says, "Stand up." OK, good. Simon says, "Turn round." Very good. But if I don't say, "Simon says", don't copy me. For example, "Turn round." No. Don't turn round. OK, very good. Let's start.</p> <p>Turn right/left. Walk/Run/Stop.</p>	<p>・児童はこのゲームをすでに知っている場合もあるが、やりながら児童にやり方を十分に理解させるようにする。児童に、Simon saysを付けて言った場合と付けない場合によって、指示された動作をするかしないかに気付かせるように、学級担任が日本語で「どうしてだめなのかな」「〇〇先生の言葉に気を付けてもう一度聞いてみよう」などと声をかけ、児童にルールに気付かせるようにする。</p> <p>・実際に動作をさせることにより、児童に動作とそれを表す表現とを結び付けさせるようにする。</p>
展開	<p><b>【Let's Listen】</b></p> <p>・活動のやり方を理解し、CDあるいは、ALTの指示を聞いて、ボブ、麻衣、健、ジュリアがどこに行くかを聞き取り、英語ノート p.31の表の「到着場所」に記入する。</p> <p>・4人の到着場所を発表する。</p> <p>・自分たちの道案内と比較して、英語での道案内の仕方を知る。</p>	<p>・英語ノート p.30, 31 を開けCD 又は、ALT の指示に従ってボブ・麻衣・健・ジュリアが、駅からどこに行くのかを聞き取るように言う。</p> <p>・4人それぞれが行く場所を確認する。</p> <p>・英語での道案内の仕方と、日本語での道案内の仕方との違いについて気付いたことを尋ねる。</p>	<p>・活動のやり方を説明する。 Now Bob, Mai, Ken and Julia are in front of the station. Can you find the station? Good. (黒板の地図に、4人のコマを置く) Now listen to the CD/me and find where they will go.</p> <p>・英語では、道が交差したところから真っすぐに進んで次に交差した地点に行くまでの道のりをブロックで表現することを説明する。</p>	<p>・単にやり方を口頭で説明するだけでなく、指導者は、実際に英語ノートの地図を簡単に黒板に描き、建物絵カードをそれに貼り、磁石などを4人に見立てる。そして4人が出発点とする駅を実際に児童に探させたり、そこからどこに行くのか、To the bank?などと具体的に挙げたりすることにより、児童にやり方を十分に理解させるようにする。</p> <p>◆聞き手にわかりやすく説明するためには、様々な工夫をすることが有用なことを実感させる。</p> <p>◎英語独特の道案内の仕方に気付いている。【気】&lt;行動観察・振り返りカード分析&gt;</p>

展開	<p><b>【Let's Chant】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャンツを言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャンツ “Where is the station?”を紹介する。ジェスチャーを付け、建物カードを示しながら一緒にチャンツを言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者は、Where?の部分では、片手を額にかざして、探しているジェスチャーをし、Go straight. Turn left/right.の部分では、実際にまっすぐ進んだり、左(右)に曲がったりしてみせることにより、児童にチャンツの内容を理解させるようにする。</li> </ul>	
展開	<p><b>【Let's Listen】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末絵カードを切り取る。</li> <li>・英語ノート p. 32, 33を開け、CDあるいはALTの指示に従って地図上で進み、空き地に巻末絵カードを置く。</li> </ul>	<p><b>【Let's Listen】</b> をすることを告げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備の指示をする。</li> </ul> <p>①巻末建物絵カードを切り取る。</p> <p>Open your textbook to page 73. You can see many cards. A post office, a bank, a park, a school and so on. Cut out all the pictures.</p> <p>②英語ノートp. 32, 33を開け、CDあるいはALTの指示に従って地図上で進み、空き地に建物絵カードを置く。</p> <p>Open your textbook to pages 32 and 33. You can see many empty spaces on the map.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の仕方をデモンストレーションで示す。</li> </ul> <p>H: Now, ~ sensei is in front of the station. Where are you going? Are you going to school? Where is the school?</p> <p>A: Now I'm in front of the station. Can you see the station? That's right. Here it is. Now I'm going to the police box. Listen to me and find the police box. Are you ready?</p> <p>Listen.</p> <p>I'm here. (駅の右通りの健とジュリアのいる場所を指差す。)</p> <p>Go straight.</p> <p>Turn left.</p> <p>Go straight.</p> <p>Go straight and stop.</p> <p>Here is the police box.</p> <p>Put the police box picture card on the map.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この活動は、ALTあるいはCDが説明する行き方を聞いて、児童が目的地の場所を探し当てることがねらいである。そこで、最初は、ALTは口頭のみで行き方を説明する。あるいはCDを聞かせる。次にその答え合わせをする際には、英語ノートp. 32, 33の地図を黒板に描き、建物絵カードを貼り、再度ALTが言う行き方の説明に従って、代表の児童が黒板の地図で磁石のコマを進めながら、行き方、目的地の場所を確認する。</li> <li>・場所を替えて何度も行い、児童の地図から空き地がなくなるようにする。また、指示に慣れてきたら、目的地までの行き方を説明する役を児童にさせてもよい。</li> </ul> <p>◎建物などの英語を聞いたり言ったりしている。【慣】&lt;行動観察・振り返りカード点検&gt;</p>	
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の振り返りをする。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul> <p>Good-bye. See you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の振り返り等について確認をする。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul> <p>Good-bye. See you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想を言う。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul> <p>Good-bye. See you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の様子等についてよかったところを具体的に挙げて確認することで、児童の次時への意欲を高めるようにする。</li> </ul>

### 外国語活動 事例3 「英語ノート1」Lesson 6とLesson 9とを題材に単元計画を設定した場合

単元名 オリジナル・ランチを作ろう

#### 本単元のねらい

児童が使っている日本語の中には、多くの外来語が存在する。そのほとんどは、基となる言語での発音と違ったり、中には意味の違う使い方をしているもの（和製英語など）があったりする。そこで、本単元では、様々な国から来た身の回りの外来語を取り上げ、外来語とその基になる言葉の発音を聞かせその違いに気付かせたい。また、私たちが普段何気なく使っている漢字も中国から伝わってきたものであることなどにも興味や関心をもたせたい。このような気付きから、自分たちが普段使っている日本語に対して、改めて興味や関心が高まるものと期待している。

本単元では、まず、ペアでフルーツ・パフェづくりを通して、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。その後、店員と客に分かれて、欲しいものを尋ねたり答えたりしてオリジナル・ランチを作成したり、誰のランチか当てる活動を通して、友だちと英語を使ってやり取りをする楽しさを体験させたい。

#### 単元目標

- 1 外来語とその基となる語との違いに気付く。
- 2 積極的に欲しいものを尋ねたり応えたりしようとする。
- 3 英語での食べ物の言い方や、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。

#### 本単元の内容

- 1 主としてコミュニケーションに関すること
  - ・英語でランチづくりを通してコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。
  - ・積極的に欲しいものを尋ねたり、応えたりすること。
  - ・自分の思いをはっきりと伝える大切さを知ること。
- 2 主として言語や文化に関すること
  - ・食べ物の語彙や欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむとともに、外来語とその基となる語とでは発音などに違いがあることを知り、言葉の面白さに気付くこと。
  - ・外来語は様々な国から伝わったことを知ること。
  - ・外国の食べ物について知り、文化等に対する理解を深めること。

表 現 : What do you want? Melon, please.

主な語彙 : kiwi, peach, melon, cherry, grape, lemon, tomato, cabbage, pizza, salad, steak, pudding, cake, donut, soccer ball, basket ball, glove, gorilla, koala, kangaroo, TV, camera, calendar, piano, guitar, want, please, and (Lesson 6 より)  
juice, curry and rice, fried chicken, hamburger, omelet, spaghetti (Lesson 9 より)

#### 単元の評価規準

##### 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- ・欲しいものについて、気持ちよく尋ねたり応えたりしている。
- ・自ら相手を求めて欲しいものを尋ねたり応えたりしている。

##### 【外国語への慣れ親しみ】

- ・食べ物の英語を聞いたり言ったりしている。
- ・欲しいものの尋ね方や答え方を言っている。

##### 【言語や文化に関する気付き】

- ・外来語とその基となる語との音の違いに気付いている。

指導と評価の計画（時間配分 5 時間）

時	目標・活動	評価				
		コ	慣	気	評価規準	評価方法
1	<p>外来語とその基となる語の音との違いに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Activity (p. 36) 知っている外来語を発表する。</li> <li>・Let's Listen (p. 36) 英語を聞いて、それが何かを当てる。</li> <li>・Let's Play 2 (p. 36) おはじきゲーム</li> <li>・Let's Listen 1 (p. 38) それぞれの食べ物がどこから来たかを考える。</li> </ul>			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来語とその基となる語との音の違いに気付いている。</li> <li>・外来語とその基となる語との音の違いに気付いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動観察・振り返りカード分析</li> <li>行動観察・振り返りカード分析</li> </ul>
2	<p>様々な食べ物や欲しいものの尋ね方や答え方の表現に慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>食べ物のチャンツを言う</u></li> <li>・<u>ビデオでスキットを見る</u></li> <li>・Let's Chant (p. 37) ♪What do you want? ♪</li> <li>・<u>おはじきゲーム</u></li> <li>・Let's Listen 2 (p. 39) 注文した物を聞き取る。</li> <li>・<u>メイク・ペアーズ・ゲーム</u></li> </ul>		○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べ物の英語を聞いている。</li> <li>・食べ物の英語を言っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動観察・振り返りカード点検</li> <li>行動観察・振り返りカード点検</li> </ul>
3	<p>欲しいものの尋ね方や答え方の表現に慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Let's Chant (p. 37) ♪What do you want? ♪</li> <li>・Activity 2 (p. 41) ペアでフルーツ・パフェを作る</li> <li>・Activity 3 (p. 41) 誰のフルーツ・パフェか当てる</li> </ul>		○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欲しいものの尋ね方や答え方を言っている。</li> <li>・欲しいものの尋ね方や答え方を言っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動観察・振り返りカード点検</li> <li>行動観察・振り返りカード点検</li> </ul>
4	<p>欲しいものについて、気持ちよく尋ねたり応えたりしようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Let's Chant (p. 37) ♪What do you want? ♪</li> <li>・<u>ペアで注文を尋ねたり答えたりする</u></li> <li>・<u>店員と客とに分かれ、ランチを作る</u></li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欲しいものの尋ね方や答え方を言っている。</li> <li>・欲しいものについて、気持ちよく尋ねたり応えたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動観察・振り返りカード点検</li> <li>行動観察・振り返りカード点検</li> </ul>
5	<p>レストランでのやりとりを通して、自ら相手を求めて欲しいものを尋ねたり応えたりしようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Let's Chant (p. 37) ♪What do you want? ♪</li> <li>・<u>店員と客とに分かれ、ランチを作る</u></li> <li>・<u>作成したランチを紹介する</u></li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら相手を求めて欲しいものを尋ねたり応えたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動観察・振り返りカード点検</li> </ul>

第1時

目標：外来語とその基となる語との音の違いに気付く。

過程	児童の活動	学級担任の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導上の留意点</li> <li>◎評価規準&lt;評価方法&gt;</li> <li>【評価の観点】</li> <li>◆国際理解の視点</li> </ul>
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶をする。</li> <li>Hello. I'm good/happy/fine/sleepy.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体に挨拶をする。</li> <li>Hello, everyone. How are you?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元気よく挨拶をし、積極的に学習をしようとする雰囲気高める。</li> </ul>
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>【Activity】</li> <li>・知っている外来語を発表する。</li> <li>ベースボール、カップ、テレビ、アップル・ジュース、バッグ、ソックスなど。</li> <li>・CDを聞く。</li> <li>・めあてをたてる。</li> <li>外来語と英語の音のひみつを探ろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の周りにあるもので知っている外来語はないか尋ねる。</li> <li>・CDで英語での言い方を聞かせる。</li> <li>・外来語と英語の音の違いに気付いたことを基に本時のめあてをたてる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の外来語の学習を想起させるようにする。</li> <li>◆言葉は、地域や国独特のものであるが、人や物が国を越えて行き来するとともに、言葉も行き来し、つくられていくことを知らせ、言葉の面白さを感じとらせるようにする。</li> <li>・全ての絵の英語での言い方を聞かせるのではなく、児童の興味をもったものをいくつか聞かせるようにする。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>【Let's Listen】</li> <li>・CDの発音を聞いて、英語ノート p. 36, 37の絵に○を付ける。</li> <li>・外来語と、その基となる語との音の違いを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語ノート p. 36, 37を開かせる。CDを聞かせて、聞こえた単語の絵に○を付けるように指示する。</li> <li>Listen to the CD. Circle the picture.</li> <li>・単にCDを聞かせるのではなく、発問を工夫しながら聞かせるようにする。</li> <li>「バナナは英語で何と言っていますか。」</li> <li>「日本語ではどんなふうに言いますか。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの絵は外来語で何というか尋ね、外来語での言い方を確認し、自由に児童に発言させることで英語と外来語との違いに気付くようにさせる。</li> <li>◎外来語とその基となる語との音の違いに気付いている。【気】&lt;行動観察・振り返りカード分析&gt;</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>【Let's Play 2】</li> <li>・おはじきゲームをする。英語ノート p. 36の絵の中から五つを選んで、その絵の上におはじきを置く。指導者の発音を聞いて、その絵の上におはじきを置いていたら取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おはじきゲームをすることを告げる。</li> <li>・ゲームのやり方をデモンストレーションする。</li> <li>・おはじきを一人に五個ずつ配り、英語ノート p. 36, 37の好きな絵の上に置かせる。</li> <li>・単語をランダムに発音してゲームを進める。何度か同じ単語を繰り返し、確認のためにその絵を示すと、児童が自分の聞き取った単語の確認をすることができる。</li> <li>Open your textbook to page 36 and 37. Take five <i>ohajiki</i> and put them on the pictures. Anywhere is OK. Now ~ <i>sensei</i> will say a word. If you have an <i>ohajiki</i> on that picture, take the <i>ohajiki</i> off. When you have no <i>ohajiki</i> on your textbook, say "Finished!"</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童に希望者を募り、児童とともにゲームの仕方のデモンストレーションを見せることで、ゲームの概要をつかみやすくさせる。</li> <li>・慣れてきたら、外来語の時はとらずに、英語の時だけとるようにするなど、ルールを工夫をする。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>【Let's Listen 1】</li> <li>・CDを聞いて、どの国で生まれた料理なのかを知り、線で結ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語ノート p. 38を開かせる。料理の写真を見ながら普段、何と言っているかを確認する。</li> <li>・CDを聞かせ、普段自分たちが使っている言葉と英語との違いに気付かせる。</li> <li>Japan すし、すき焼き France シュークリーム、グラタン Korea キムチ、ビビンパ Italy ピザ、スパゲティ</li> <li>・答えを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来語と英語の音の違いに気付くことができるように、普段使っている外来語を意識させる。</li> <li>・繰り返し聞かせたり、国旗を参考にさせたりする。</li> <li>◆児童にこの活動を通して、身の回りにある外来語のほとんどは英語だけでなく様々な言語であることに気付かせる。</li> <li>◎外来語とその基となる語との音の違いに気付いている。【気】&lt;行動観察・振り返りカード分析&gt;</li> </ul>
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りをする。</li> <li>・挨拶をする。</li> <li>Good-bye. See you.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の振り返り等について確認をする。</li> <li>・挨拶をする。</li> <li>Good-bye. See you.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲をもって次時を迎えられるように、具体的に児童のよかったところをほめる。</li> </ul>

第2時

目標：様々な食べ物や欲しいものの尋ね方や答え方の表現に慣れ親しむ。

過程	児童の活動	学級担任の活動	・指導上の留意点 ◎評価規準<評価方法> 【評価の観点】 ◆国際理解の視点
挨拶	・挨拶をする。 Hello. I'm good/ happy/fine/sleepy.	・全体に挨拶をする。 Hello, everyone. How are you?	・元気に挨拶をし、積極的に学習をしようとする雰囲気高める。
導入	・食べ物のチャンツを言う。 ・ビデオでスキットを見る。 ・めあてをたてる。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">ほしいものをたずねたり答えたりしよう。</div>	・前時までに扱った語彙を使って、リズムに合わせてチャンツを言う。 ・事前に撮影しておいたビデオ映像を見せることで、表情やジェスチャーからどのような場面なのかを推測させ、本時のめあてを確認する。 ・前時の活動を想起させ、さらに発展的な活動に挑戦することを伝える。	・リズムよくチャンツを言うことができるようにタンバリンやカスタネットなどのリズム楽器を用意するとよい。
展開	【Let's Chant】 ・チャンツを言う。	・絵カードを黒板に提示する。 juice, curry and rice, fried chicken, hamburger, omelet, spaghetti, salad, pizza, milk, <i>sushi</i> , parfait	・リズムよく行うことで、本時に扱う語彙や表現に慣れ親しませる。
展開	・おはじきゲームをする。 ・指導者の発音を聞いて、その絵の上におはじきを置いていたら取る。	・英語ノート p. 77 巻末についている食べ物絵カードを机の上に広げさせる。おはじきを一人に五個ずつ配り、好きな絵カードの上に置かせる。 ・児童に“What do you want?”とチャンツのリズムで言わせてから食べ物の名前を言うようにする。	・慣れてきたら、食べ物を答える役割を児童にさせる。 ◎食べ物の英語を聞いている。【慣】<行動観察・振り返りカード点検>
展開	【Let's Listen 2】 ・何を注文したかを当てる。 Mai: pizza, salad, juice Ken: soup, steak, pudding	・英語ノート p. 39 の絵の場面がどのようなものかを考えさせ、CDを聞かせる。麻衣と健がそれぞれ注文したものを尋ねる。	・CDで、欲しいものについての尋ね方や答え方を聞かせるようにする。
展開	・メイク・ペアーズ・ゲームをする。	・ゲームの説明をデモンストレーションを行って示す。 ①各児童は、異なる絵カードを五枚ずつもらう。 ②二人組になり、じゃんけんで負けた方から相手に何が欲しいか“What do you want?”と尋ねる。 ③尋ねられた方は“Pizza, please.”と欲しいカードを言う。 ④答えられた絵カードを持っていけば相手に渡す。 ⑤絵カードのペアができたなら、それらを抜く。 ⑥役割を交代して質問する。 ⑦相手を替えながら行い、手持ちの絵カードがなくなればあがりとなる。	・指導者は、尋ねにくかったり、答えにくかったりする児童に寄り添い、モデルを示し一緒に尋ねたり答えたりする。 ・指導者は児童の様子を観察し、活動を途中で止めて、What do you want?などをしっかり聞いたり言ったりしている児童を具体的にほめることにより、これらの表現を全児童に確認をさせるようにする。 ◎食べ物の英語を言っている。【慣】<行動観察・振り返りカード点検>
挨拶	・振り返りをする。 ・挨拶をする。 Good-bye. See you.	・児童の振り返り等について確認をする。 ・挨拶をする。 Good-bye. See you.	・次時の意欲につながるよう、具体的に児童のよかったところをほめる。

第3時

目標：欲しいものの尋ね方や答え方の表現に慣れ親しむ。

過程	児童の活動	学級担任の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導上の留意点</li> <li>◎評価規準&lt;評価方法&gt;</li> <li>【評価の観点】</li> <li>◆国際理解の視点</li> </ul>
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶をする。</li> </ul> <p>Hello. I'm good/happy/fine/sleepy.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体に挨拶をする。</li> </ul> <p>Hello, everyone. How are you?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に予告をしていたパフェづくりをすることを知らせ、学習意欲を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元気に挨拶をし、積極的に学習をしようとする雰囲気高める。</li> </ul>
導入	<p>【Let's Chant】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フルーツのチャンツを言う。</li> <li>・フルーツ・パフェを作るスキットを見る。</li> <li>・めあてをたてる。</li> </ul> <p>ほしいものをたずねたり、たのんだりしてフルーツ・パフェを作ろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムに合わせてフルーツのチャンツをさせる。</li> <li>・自分の好きなフルーツを選ばせたり、ジェスチャーを付けさせたりして、雰囲気が高まるようにする。</li> <li>・ペアで行うスキットの様子を見せる。指導者がいない場合は、事前に撮影しておいたビデオ映像を見せる。</li> <li>・表情やジェスチャーはどのようにしたらよいかを考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムよくチャンツを言うことができるようにタンバリンやカスタネットなどのリズム楽器を用意するとよい。</li> <li>・自分だけのフルーツ・パフェを作るには、友だちとのコミュニケーションが大切であるということに気付かせる。</li> </ul>
展開	<p>【Activity 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで互いのフルーツ・パフェを作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアになり、英語ノート巻末果物絵カードを机の上に広げさせる。</li> <li>・活動の仕方を説明する。</li> <li>①どちらか一人がフルーツの注文をとる役となり、もう一人が自分の好きなフルーツを答える。</li> <li>②頼まれた方は、絵カードをパフェの容器の絵の上に置くようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尋ねにくかったり、答えにくかったりする児童がいれば、モデルを示して真似させる。</li> <li>◆物を差し出したり、渡したりする際に、相手の注意を引く表現 <b>Here you are.</b>、あるいは、感謝に対する返答 <b>You're welcome.</b> は、ここで初めて児童に発話を求めることになるが、今までの単元においても、カードを渡したりする際に、これらの表現を指導者が意識して使っておくことが大切である。これらの表現は、人と人との関係を豊かにするものである。</li> <li>◎欲しいものの尋ね方や答え方を言っている。【慣】&lt;行動観察・振り返りカード点検&gt;</li> </ul>
展開	<p>【Activity 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のフルーツ・パフェをグループの中で紹介する。</li> <li>・誰のフルーツ・パフェかを当てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで各児童に自分のフルーツ・パフェを紹介させる。</li> <li>・フルーツ・パフェ当てをする。</li> <li>①1グループが作成したフルーツ・パフェをみんなに見せる。</li> <li>②そのグループの一人が、自分のフルーツ・パフェをみんなの前で紹介する。</li> <li>③他のグループの児童は、その紹介を聞いて、その児童のフルーツ・パフェはどれかを答える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループという少人数の中で紹介することで、発表することに対する不安感を和らげる。</li> <li>・誰のパフェか当てるというクイズ形式にすることで聞くことに対する興味をもたせる。</li> <li>◆様々に工夫した手法でパフェを紹介する体験を通して、プレゼンテーション力を高める。</li> <li>◎欲しいものの尋ね方や答え方を言っている。【慣】&lt;行動観察・振り返りカード点検&gt;</li> </ul>
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りをする。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul> <p>Good-bye. See you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の振り返り等について確認をする。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul> <p>Good-bye. See you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の意欲につながるよう、具体的に児童のよかったところをほめる。</li> </ul>

## 外国語活動 事例4 「英語ノート」を活用せず、独自に単元計画を設定した場合

単元名 どこへ行きたい？(世界編)

### 本単元のねらい

本単元では、以前に日本国内で行きたいところを紹介し合う活動を体験していることを生かして、児童一人ひとりが自分の担当する国について、食や暮らし、観光資源等の情報を調べ、ツアーコンダクターとして担当国のよさを英語で効果的にアピールしたり、またそれを聞いて自分が行きたい国を考えたりする活動を行う。この活動を通して、国を紹介する英語表現に慣れ親しみ、話し手が質問して聞き手の反応を引き出したり、聞き手側からも知りたい情報について質問したり、自分の考えを述べたりして、互いの理解を確かめ合いながらコミュニケーションを図ろうとする態度を育てることをねらいとする。現代は、テレビ等を通して、世界の国々の様々な民族の暮らしを知ったり、海外旅行に憧れをもったりしている児童も多い。そのため、本単元はコミュニケーションを通して、世界の国々の風俗・習慣について新しい発見をすることができる題材として、児童にとって大変魅力あるものといえる。

使用表現は、自分の担当国を紹介する表現として、*In ~, we can eat/drink/see/enjoy/play ~.* を設定している。コミュニケーションに際しては、話し手に理解しているかどうかを伝えたり、聞き手が理解しているかどうかを確認したりしながら聞いたり話したりすること、また、質問を織り交ぜて相手の反応を引き出ししながら、対話を継続させること等、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。

### 単元目標

- ・世界の様々な国の食や生活の文化、行事等を知り、日本との違いに気付く。
- ・相手の理解を確かめ、反応を引き出しながら話そうとする。
- ・相手に反応を示しながら聞こうとする。
- ・外国の魅力を表す表現や、相手の理解を確かめたり、反応を引き出したりする表現に慣れ親しむ。

### 本単元の内容

- 1 主としてコミュニケーションに関すること
  - ・外国の魅力を紹介し合う活動を通して、コミュニケーションを図る楽しさを体験すること。
  - ・聞き手の理解を確かめながら話したり、質問を織り交ぜて聞き手の反応を引き出しながら話したりすること。
  - ・話し手に質問したり、自分の考えを述べたり、自分の理解の状況を示したりしながら聞いたりすること。
- 2 主として言語や文化に関すること
  - ・外国の魅力を伝える表現や、理解を確かめたり、聞き返したり、相手の反応を引き出すために質問したりする表現に慣れ親しむこと。
  - ・様々な国の食や生活の文化、行事等を知り、日本との違いに気付くこと。

表 現 : *In ~, we can ~. ~ is famous for ~. Do you like/know ~?*

主な語彙 : 食べ物や飲み物, eat, drink, see, enjoy, play, 国名等

### 単元の評価規準

#### 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- ・相手の理解を確かめ、反応を引き出しながら話している。
- ・相手に反応を示しながら聞いている。

#### 【外国語への慣れ親しみ】

- ・有名なことや体験できることについて聞いたり言ったりしている。
- ・相手の理解を確かめたり、反応を引き出したりする表現を言っている。

#### 【言語や文化に関する気付き】

- ・日本と異なる外国の文化や生活等に気付いている。

単元指導計画（時間配分 7 時間）

時	目標・活動	評価				
		コ	慣	気	評価規準	評価方法
1	<p>様々な国旗やその国の位置, 生活の様子等を知り, 日本との違いに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クイズ「どこの国の国旗？」をする。</li> <li>・ゲーム「国旗カルタ取り」をする。</li> <li>・クイズ「この国の写真はどれ？」をする。</li> </ul>			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国によって, 生活や国旗に描かれている模様が表す意味が様々であることに気付いている。</li> <li>・国によって, 生活や国旗に描かれている模様が表す意味が様々であることに気付いている。</li> </ul>	<p>行動観察・振り返りカード分析</p> <p>行動観察・振り返りカード分析</p>
2	<p>体験できる表現に慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クイズ「国の位置, 国旗, 様子から当てよう」をする。</li> <li>・ALT お勧めの国紹介 1 を聞き, 感想を交流する。</li> <li>・ゲーム「有名なもの紹介 1」をする。</li> </ul>		○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・有名なことについて言っている。</li> </ul>	行動観察・振り返りカード点検
3	<p>担当国の紹介内容をまとめ, 絵や写真等の具体物を活用して担当国を紹介しようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム「有名なもの紹介 2」をする。</li> <li>・ALT お勧めの国紹介 2 を聞く。</li> <li>・担当国の紹介内容を考える。</li> <li>・担当国の紹介をする。</li> </ul>		○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国名を英語で言っている。</li> <li>・体験できることについて言っている。</li> </ul>	<p>行動観察・振り返りカード点検</p> <p>行動観察・振り返りカード点検</p>
4	<p>相手の話に反応しながら聞こうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当国を, 英語を使って紹介する。</li> <li>・HRT と ALT のモデル対話を視聴する。</li> <li>・左右ペアで紹介し合う。</li> <li>・前後ペアで紹介し合う。</li> </ul>		○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験できることについて言っている。</li> <li>・相手に反応を示しながら聞いている。</li> </ul>	<p>行動観察・振り返りカード点検</p> <p>行動観察・振り返りカード点検</p>
5	<p>相手の理解を確かめ, 反応を引き出しながら話そうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ツアーコンダクターになり担当国を客に紹介する。</li> <li>・HRT と ALT のモデル対話を視聴する。</li> <li>・左右ペアで紹介し合う。</li> <li>・前後ペアで紹介し合う。</li> </ul>		○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の理解を確かめたり, 反応を引き出したたりする表現を言っている。</li> <li>・相手の理解を確かめ, 反応を引き出しながら話している。</li> </ul>	<p>行動観察・振り返りカード点検</p> <p>行動観察・振り返りカード点検</p>
6 ・ 7	<p>担当国を紹介する活動を通して, 日本と異なる外国の文化や行事に気付くとともに, 互いの理解を確かめながら会話を継続しようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ツアーコンダクターと客の対話をする。</li> <li>・中間の感想交流</li> <li>・ツアーコンダクターと客の対話をする。</li> <li>・行きたい国について交流する。</li> </ul>		○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の理解を確かめたり, 反応を引き出したたりする表現を言っている。</li> <li>・相手の理解を確かめ, 反応を引き出しながら話している。</li> <li>・日本と異なる外国の文化や生活等に気付いている。</li> </ul>	<p>行動観察・振り返りカード点検</p> <p>行動観察・振り返りカード点検</p> <p>行動観察・振り返りカード分析</p>

第6・7時

目標：担当国を紹介する活動を通して、日本と異なる外国の文化や行事に気付くとともに、互いの理解を確かめながら会話を継続しようとする。

過程	児童の活動	学級担任(H)の活動	ALTの活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導上の留意点</li> <li>◎評価規準&lt;評価方法&gt;</li> <li>【評価の観点】</li> <li>◆国際理解の視点</li> </ul>
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶をする。</li> </ul> <p>Hello. I'm good/ happy/fine/sleepy.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体に挨拶をした後、数名の児童と挨拶をする。</li> </ul> <p>Hello, everyone. How are you?</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・元気に挨拶をし、積極的に学習をしようとする雰囲気を高める。</li> </ul>
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの学習を思い出し、ツアーコンダクターと客の話し方・聞き方のポイントを発言する。</li> </ul>	<p>H: 今日と次の時間は、いよいよツアーコンダクターとして、できるだけたくさんの仲間に、自分の担当国を気に入ってもらえるように話をします。最後に、どの国が最も人気があったのか、確認しましょう。ツアーコンダクターの話し方、お客さんの聞き方で、どんなことに気を付けるとよかったですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の発言を基に、話し方・聞き方のポイントを板書で整理する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>&lt;ツアーコンダクターの話し方&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵や写真を指し示しながら話す。</li> <li>・相手が理解しているか確認しながら話す。</li> <li>・お客さんを話に巻き込めるように質問を織り交ぜる。</li> </ul> <p>&lt;お客の聞き方&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の話を繰り返して、理解したことを示す。</li> <li>・感想を加える。</li> <li>・知りたいことを質問する。</li> <li>・聞き取れない場合は繰り返してもらおう。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTは具体的な有効表現を指導する。</li> </ul> <p>H: これらのことに注意して担当国の紹介をしてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてを提示する。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>&lt;話し方・聞き方のポイントに注意して、たくさんのお客さんを集めるように担当国を紹介しよう。&gt;</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後に、人気国を決めることで、活動の意欲を高めるようにする。</li> <li>・話し方・聞き方のポイントがうまく引き出せないような場合は、HRTとALTのモデルを再度視聴させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTは、話し方・聞き方のポイントの中で使用できる有効表現を示し、リピートさせ慣らしをさせるようにする。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ国を同じ資料で紹介するグループ内の左右ペアのうち、片方がツアーコンダクター、片方が客として、他のグループの仲間と対話する。</li> <li>・ツアーコンダクターは、自分の店に客を呼び込んで説明する。客は自由に開いている店を回る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動のやり方を説明する。</li> <li>・特に活動が滞りがちになる心配のある児童に寄り添いながら、特に客としての反応のよい児童を見つけて、学級で紹介できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語表現で困っている児童の質問に答えながら、特にツアーコンダクターとして話しぶりのよい児童を見つけて、学級で紹介できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第6と第7時のそれぞれを、前半後半とに分ける。一緒に説明を考えた左右ペアの片方がツアーコンダクターとして説明、もう片方が客として店を回るようにし、前半と後半で役割を交代するようにする。</li> <li>◎相手の理解を確かめたり、反応を引き出したりする表現を言っている。【慣】&lt;行動観察・振り返りカード点検&gt;</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>対話例&lt;T: ツアーコンダクター, C:客&gt;</p> <p>T: Welcome. Italy is very good.</p> <p>C: Oh, Italy.</p> <p>T: Yes. In Italy, we can eat Italian food.</p> <p style="padding-left: 20px;">Do you like Italian food?</p> <p>C: Yes. I like pizza.</p> <p>T: Me, too. Italian pizza and pasta are very good.</p> <p style="padding-left: 20px;">Do you like pasta, too?</p> <p>C: So so.</p> <p>T: OK. In Italy, we can see the Tower of Pisa.</p> <p style="padding-left: 20px;">Do you know it?</p> </div>				

	<p>C: Pardon?  T: The Tower of Pisa. OK?  C: The Tower of Pisa. OK.  T: It is in Pisa City. It is very high. Can you guess?  C: Umm..., 30 meters?  T: No, it's 55 meters, very high.  C: I see.  T: In Italy, * <u>many beautiful cities.</u>  For example, Rome, Florence, Milan, Venice, Naples. Which do you like?  C: I like Rome.  T: So please come to Italy.  What do you think about Italy?  C: I like Italy.  T: Why?  C: In Italy, we can eat pizza.  We can see the Tower of Pisa.  T: Thank you.</p> <p>* <u>many beautiful cities.</u> は、本来なら、there are many beautiful cities. とするところであるが、児童の実態と本活動のねらいから、例に示したフレーズの発話としている。</p>			◆対話を通して、担当国以外の食や生活の文化、魅力ある観光地、その国で体験できること等の理解を深める。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ツアーコンダクターと客との役割を交代して、活動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に活動が滞りがちになる心配のある児童に寄り添いながら、特に客としての反応のよい児童を見つけて、学級で紹介できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語表現で困っている児童の質問に答えながら、特にツアーコンダクターとして話しぶりのよい児童を見つけて、学級で紹介できるようにする。</li> </ul>	◎相手の理解を確かめ、反応を引き出しながら話している。【コ】<行動観察・振り返りカード点検>
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介を受けた国の中で、どの国に魅力を感じたかを発表する。</li> <li>・担当国以外で行きたくなった国に投票する。</li> <li>・振り返りカードに本時の振り返りを記入し発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の児童に、どの国に魅力を感じたかを尋ねる。</li> <li>・第6時終了時の中間発表として、八つの国の人気票数を整理する。</li> <li>・聞き手として、効果的に反応していた児童を紹介する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し手として、確認や質問を効果的にしていた児童を紹介する。</li> </ul>	◎日本と異なる外国の文化や生活等に気付いている。【気】<行動観察・振り返りカード分析> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第6時終了時の中間結果として人気投票を明らかにすることで、次時への意欲を高める。</li> <li>・第7時は、最終一番人気の国を決定する。</li> </ul>
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶をする。</li> </ul>	

# 参 考 資 料

- 1 小学校外国語活動における評価方法等の工夫に関する調査研究について（平成22年7月7日，国立教育政策研究所長裁定）
- 2 小学校外国語活動における評価方法等の工夫に関する調査研究協力者
- 3 小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（平成22年5月11日付け文部科学省初等中等教育局長通知）（抄）



## 小学校外国語活動における評価方法等の工夫に関する調査研究について

平成 22 年 7 月 7 日  
国立教育政策研究所長裁定

### 1 趣 旨

学習評価については、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会において「児童生徒の学習評価の在り方について」（平成 22 年 3 月 24 日）の報告がまとめられ、外国語活動では、評価の観点を設定し文章の記述による評価を行うことが適当であると示されたところである。

また、「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」（平成 22 年 5 月 11 日付け文部科学省初等中等教育局長通知）では、各設置者の参考となるよう外国語活動の評価の観点及びその趣旨が示されたところである。

これらを踏まえ、各学校における学習評価の円滑な実施に資するため、小学校外国語活動における評価方法等の工夫に関する調査研究を行う。

### 2 調査研究事項

- (1) 学校における学習評価に関する取組についての情報収集
- (2) 英語ノートに沿った学習活動に係る評価規準作成の参考となる資料の作成
- (3) 評価方法等の工夫に関する実践事例の作成
- (4) 上記 (1) から (3) に関連する事項

### 3 実施方法

調査研究に当たっては、教育委員会関係者、教員及び学識経験者等を協力者として委嘱し、2の事項について調査研究を行う。

### 4 庶 務

この調査研究にかかる庶務は、教育課程研究センターにおいて処理する。

### 5 実施期間

平成 22 年 7 月 7 日～平成 23 年 3 月 31 日

小学校外国語活動における評価方法等の工夫に関する調査研究協力者（五十音順）  
（職名は平成22年7月現在）

薄井 伸一 岐阜県多治見市立笠原小学校教頭  
河原 千夏 鹿児島県鹿児島市立山下小学校教諭  
直井 恵子 神奈川県座間市立入谷小学校教頭  
日向端 聖 青森県八戸市立市野沢小学校教諭  
平岡 昌子 広島県立教育センター指導主事  
萬谷 隆一 北海道教育大学教授

国立教育政策研究所においては、次の関係官が担当した。

直山木綿子 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官

この他、編集に当たっては、国立教育政策研究所において以下の者が担当した。

神代 浩 国立教育政策研究所教育課程研究センター長（平成22年7月30日から）  
作花 文雄 前国立教育政策研究所教育課程研究センター長（平成22年7月29日まで）  
宮内 健二 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部長  
梅澤 敦 前国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部長  
佐瀬 宣次 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官  
本田 史子 前国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官  
大内 克紀 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部研究開発課長  
稲葉 敦 前国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部研究開発課長  
大原 一仁 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部研究開発課指導係長  
新堀 栄 前国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部研究開発課指導係長  
岸本 良彦 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部研究開発課指導係専門職

22文科初第1号  
平成22年5月11日

各都道府県教育委員会  
各指定都市教育委員会  
各都道府県知事  
附属学校を置く各国立大学長  
構造改革特別区域法第12条第1項の  
認定を受けた地方公共団体の長

殿

文部科学省初等中等教育局長

金森越哉

(印影印刷)

小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の  
学習評価及び指導要録の改善等について（通知）（抄）

このたび、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会において、「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成22年3月24日）（以下「報告」という。）がとりまとめられました。

「報告」においては、学習指導要領において示された基礎的・基本的な知識・技能、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等及び主体的に学習に取り組む態度の育成が確実に図られるよう、学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善すること等が重要とされています。また、保護者や児童生徒に対して、学習評価に関する仕組み等について事前に説明したり、評価結果の説明を充実したりするなどして学習評価に関する情報をより積極的に提供することも重要とされています。

指導要録は、児童生徒の学籍並びに指導の過程及び結果の要約を記録し、その後の指導及び外部に対する証明等に役立たせるための原簿となるものであり、各学校で学習評価を計画的に進めていく上で重要な表簿です。

文部科学省においては、「報告」を受け、各学校における学習評価が円滑に行われ

るとともに、各設置者による指導要録の様式の決定や各学校における指導要録の作成の参考となるよう、学習評価を行うに当たっての配慮事項、指導要録に記載する事項及び各学校における指導要録の作成に当たっての配慮事項等を別紙1～6のとおりとりまとめました。

については、下記に示す学習評価を行うに当たっての配慮事項及び指導要録に記載する事項の見直しの要点並びに別紙について十分に御了知の上、各都道府県教育委員会におかれては、所管の学校及び域内の市町村教育委員会に対し、各指定都市教育委員会におかれては、所管の学校に対し、各都道府県知事及び構造改革特別区域法第12条第1項の認定を受けた地方公共団体の長におかれては、所轄の学校及び学校法人等に対し、国立大学長におかれては、その管下の学校に対して、「報告」の趣旨も踏まえ、指導要録の様式が適切に設定され、新しい学習指導要領に対応した学習指導と学習評価が行われるよう、これらの十分な周知及び必要な指導等をお願いします。

さらに、幼稚園、特別支援学校幼稚部、保育所及び認定こども園（以下、「幼稚園等」という。）と小学校及び特別支援学校小学部との緊密な連携を図る観点から、幼稚園等においてもこの通知の趣旨の理解が図られるようお願いします。

なお、平成13年4月27日付け13文科初第193号「小学校児童指導要録、中学校生徒指導要録、高等学校生徒指導要録、中等教育学校生徒指導要録並びに盲学校、聾学校及び養護学校の小学部児童指導要録、中学部生徒指導要録及び高等部生徒指導要録の改善等について」及び平成20年12月25日付け20文科初第1081号「小学校学習指導要領等に関する移行期間中における小学校児童指導要録等の取扱いについて」のうち、小学校及び特別支援学校小学部に関する部分は平成23年3月31日をもって、中学校（中等教育学校の前期課程を含む。以下同じ。）及び特別支援学校中学部に関する部分は平成24年3月31日をもって、高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ。）及び特別支援学校高等部に関する部分は平成25年3月31日をもって、それぞれ廃止します。

## 記

### 1 学習評価の改善に関する基本的な考え方について

(1) 学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが重要であること。その上で、新しい学習指導要領の下における学習評価の改善を図っていくためには以下の基本的な考え方に沿って学習評価を行うことが必要であること。

- ① きめの細かな指導の充実や児童生徒一人一人の学習の確実な定着を図るため、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を評価する、目標に準拠した評価を引き続き着実に実施すること。

② 新しい学習指導要領の趣旨や改善事項等を学習評価において適切に反映すること。

③ 学校や設置者の創意工夫を一層生かすこと。

(2) 学習評価における観点については、新しい学習指導要領を踏まえ、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」及び「知識・理解」に整理し、各教科等の特性に応じて観点を示している。設置者や学校においては、これに基づく適切な観点を設定する必要があること。

(3) 高等学校における学習評価については、引き続き観点別学習状況の評価を実施し、きめの細かい学習指導と生徒一人一人の学習の確実な定着を図っていく必要があること。

(4) 障害のある児童生徒に係る学習評価の考え方は、障害のない児童生徒に対する学習評価の考え方と基本的には変わるものではないが、児童生徒の障害の状態等を十分理解しつつ、様々な方法を用いて、一人一人の学習状況を一層丁寧に把握することが必要であること。また、特別支援学校については、新しい学習指導要領により個別の指導計画の作成が義務付けられたことを踏まえ、当該計画に基づいて行われた学習の状況や学習の結果の評価を行うことが必要であること。

## 2 効果的・効率的な学習評価の推進について

(1) 学校や設置者においては、学習評価の妥当性、信頼性等を高めるとともに、教師の負担感の軽減を図るため、国等が示す評価に関する資料を参考にしつつ、評価規準や評価方法の一層の共有や教師の力量の向上等を図り、組織的に学習評価に取り組むことが重要であること。

(2) その際、学習評価に関する情報の適切な管理を図りつつ、情報通信技術の活用により指導要録等に係る事務の改善を検討することも重要であること。なお、法令に基づく文書である指導要録について、書面の作成、保存、送付を情報通信技術を活用して行うことは、現行の制度上も可能であること。

(3) 今後、国においても、評価規準等の評価の参考となる資料を作成することとしているが、都道府県等においても、学習評価に関する研究を進め、学習評価に関する参考となる資料を示すとともに、具体的な事例の収集・提示を行うことが重要であること。

## 3 小・中学校及び特別支援学校小・中学部の指導要録について

(1) 小学校及び特別支援学校小学部の外国語活動について、設置者において、学習指導要領の目標及び具体的な活動等に沿って評価の観点を設定することとし、文章の記述による評価を行うこと。

(2) 特別活動について、学習指導要領の目標及び特別活動の特質等に沿って、各学

校において評価の観点を定めることができるようにすることとし、各活動・学校行事ごとに評価すること。

#### 4 高等学校及び特別支援学校高等部の指導要録について

各教科・科目の評定については、観点別学習状況の評価を引き続き十分踏まえること。

〔別紙1〕 小学校及び特別支援学校小学部の指導要録に記載する事項等

〔別紙2〕 中学校及び特別支援学校中学部の指導要録に記載する事項等

〔別紙3〕 高等学校及び特別支援学校高等部の指導要録に記載する事項等

〔別紙4〕 各学校における指導要録の保存、送付等に当たっての配慮事項

〔別紙5〕 各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨（小学校及び特別支援学校小学部並びに中学校及び特別支援学校中学部）

〔別紙6〕 各教科の評価の観点及びその趣旨（高等学校及び特別支援学校高等部）

〔参考1〕

文部科学省ホームページ 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成22年3月24日）

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1292163.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1292163.htm)

〔参考2〕

各設置者における指導要録の様式の設定に当たっての検討に資するため、別添として指導要録の「参考様式」を示している。

## 小学校及び特別支援学校小学部の指導要録に記載する事項等

## I 学籍に関する記録

学籍に関する記録については，原則として学齢簿の記載に基づき，学年当初及び異動の生じたときに記入する。

- 1 児童の氏名，性別，生年月日及び現住所
- 2 保護者の氏名及び現住所
- 3 入学前の経歴

小学校及び特別支援学校小学部（以下，「小学校等」という。）に入学するまでの教育又は保育関係の略歴（在籍していた幼稚園，特別支援学校幼稚部，保育所又は認定こども園等の名称及び在籍期間等）を記入する。なお，外国において受けた教育の実情なども記入する。

## 4 入学・編入学等

## (1) 入学

児童が第1学年に入学した年月日を記入する。

## (2) 編入学等

第1学年の中途又は第2学年以上の学年に，在外教育施設や外国の学校等から編入学した場合，又は就学義務の猶予・免除の事由の消滅により就学義務が発生した場合について，その年月日，学年及び事由等を記入する。

## 5 転入学

他の小学校等から転入学してきた児童について，転入学年月日，転入学年，前に在学していた学校名，所在地及び転入学の事由等を記入する。

## 6 転学・退学等

他の小学校等に転学する場合には，転学先の学校が受け入れた日の前日に当たる年月日，転学先の学校名，所在地，転入学年及びその事由等を記入する。また，学校を去った年月日についても併記する。

在外教育施設や外国の学校に入るために退学する場合又は学齢（満15歳に達した日の属する学年の終わり）を超過している児童が退学する場合は，校長が退学を認めた年月日及びその事由等を記入する。

なお，就学義務が猶予・免除される場合又は児童の居所が1年以上不明である場合は，在学しない者として取り扱い，在学しない者と認めた年月日及びその事由等を記入する。

## 7 卒業

校長が卒業を認定した年月日を記入する。

## 8 進学先

進学先の中学校又は特別支援学校中学部の学校名及び所在地を記入する。

## 9 学校名及び所在地

分校の場合は、本校名及び所在地を記入するとともに、分校名、所在地及び在学した学年を併記する。

#### 10 校長氏名印，学級担任者氏名印

各年度に、校長の氏名、学級担任者の氏名を記入し、それぞれ押印する。（同一年度内に校長又は学級担任者が代わった場合には、その都度後任者の氏名を併記する。）

なお、氏名の記入及び押印については、電子署名（電子署名及び認証業務に関する法律（平成12年法律第102号）第2条第1項に定義する「電子署名」をいう。）を行うことで替えることも可能である。

## II 指導に関する記録

小学校における指導に関する記録については、以下に示す記載することが適当な事項に留意しながら、各教科の学習の記録（観点別学習状況及び評定）、外国語活動の記録、総合的な学習の時間の記録、特別活動の記録、行動の記録、総合所見及び指導上参考となる諸事項並びに出欠の記録について学年ごとに作成する。

特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）小学部における指導に関する記録については、小学校における指導に関する記録に記載する事項に加えて、自立活動の記録について学年ごとに作成するほか、入学時の障害の状態について作成する。

特別支援学校（知的障害）小学部における指導に関する記録については、各教科の学習の記録、特別活動の記録、自立活動の記録、行動の記録、総合所見及び指導上参考となる諸事項並びに出欠の記録について学年ごとに作成するほか、入学時の障害の状態について作成する。

特別支援学校小学部に在籍する児童については、個別の指導計画を作成する必要があることから、指導に関する記録を作成するに当たって、個別の指導計画における指導の目標、指導内容等を踏まえた記述となるよう留意する。また、児童の障害の状態等に即して、学校教育法施行規則第130条の規定に基づき各教科の全部若しくは一部について合わせて授業を行った場合又は各教科、道徳、外国語活動、特別活動及び自立活動の全部若しくは一部について合わせて授業を行った場合並びに特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成21年文部科学省告示第36号）第1章第2節第5の規定（重複障害者等に関する教育課程の取扱い）を適用した場合にあっては、その教育課程や実際の学習状況を考慮し、各教科等を合わせて記録できるようにするなど、必要に応じて様式等を工夫して、その状況を適切に記入する。

特別支援学級に在籍する児童の指導に関する記録については、必要がある場合、特別支援学校小学部の指導要録に準じて作成する。

#### 1 各教科の学習の記録

小学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）小

学部における各教科の学習の記録については、観点別学習状況及び評定について記入する。

特別支援学校（知的障害）小学部における各教科の学習の記録については、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に示す小学部の各教科の目標、内容に照らし、具体的に定めた指導内容、実現状況等を文章で記述する。

#### (1) 観点別学習状況

小学校及び特別支援学校（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由又は病弱）小学部における観点別学習状況については，小学校学習指導要領（平成20年文部科学省告示第27号）及び特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（以下，「小学校学習指導要領等」という。）に示す各教科の目標に照らして，その実現状況を観点ごとに評価し記入する。その際，「十分満足できる」状況と判断されるものをA，「おおむね満足できる」状況と判断されるものをB，「努力を要する」状況と判断されるものをCのように区別して評価を記入する。

小学校及び特別支援学校（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由又は病弱）小学部における各教科の評価の観点について，設置者は，小学校学習指導要領等を踏まえ，別紙5を参考に設定する。また，各学校において，観点を追加して記入できるようにする。

#### (2) 評定

小学校及び特別支援学校（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由又は病弱）小学部における評定については，第3学年以上の各教科の学習の状況について，小学校学習指導要領等に示す各教科の目標に照らして，その実現状況を総括的に評価し記入する。

各教科の評定は，小学校学習指導要領等に示す各教科の目標に照らして，その実現状況を「十分満足できる」状況と判断されるものを3，「おおむね満足できる」状況と判断されるものを2，「努力を要する」状況と判断されるものを1のように区別して評価を記入する。

評定に当たっては，評定は各教科の学習の状況を総括的に評価するものであり，「(1) 観点別学習状況」において掲げられた観点は，分析的な評価を行うものとして，各教科の評定を行う場合において基本的な要素となるものであることに十分留意する。その際，評定の適切な決定方法等については，各学校において定める。

## 2 外国語活動の記録

小学校及び特別支援学校（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由又は病弱）小学部における外国語活動の記録については，評価の観点を記入した上で，これらの観点到照らして，児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等，児童にどのような力が身に付いたかを文章で記述する。

評価の観点については，設置者は，小学校学習指導要領等に示す外国語活動の目標を踏まえ，別紙5を参考に設定する。また，各学校において，観点

を追加して記入できるようにする。

### 3 総合的な学習の時間の記録

小学校及び特別支援学校（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由又は病弱）小学部における総合的な学習の時間の記録については，この時間に行った学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入した上で，それらの観点のうち，児童の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等，児童にどのような力が身に付いたかを文章で記述する。

評価の観点については，小学校学習指導要領等に示す総合的な学習の時間の目標を踏まえ，各学校において具体的に定めた目標，内容に基づいて定める。その際，例えば，「よりよく問題を解決する資質や能力」，「学び方やものの考え方」，「主体的，創造的，協同的に取り組む態度」及び「自己の生き方」等と学習指導要領に示す総合的な学習の時間の目標を踏まえて定めたり，「学習方法に関すること」，「自分自身に関すること」及び「他者や社会とのかかわりに関すること」等の視点に沿って各学校において育てようとする資質や能力等を踏まえて定めたりすることが考えられる。また，教科との関連を明確にし，総合的な学習の時間の学習活動にかかわる「関心・意欲・態度」，「思考・判断・表現」，「技能」及び「知識・理解」等と定めることも考えられる。

### 4 特別活動の記録

小学校及び特別支援学校（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由又は病弱）小学部における特別活動の記録については，各学校が自ら定めた特別活動全体に係る評価の観点を記入した上で，各活動・学校行事ごとに，評価の観点に照らして十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に，○印を記入する。

評価の観点については，小学校学習指導要領等に示す特別活動の目標を踏まえ，各学校において別紙5を参考に定める。その際，例えば，「集団の一員としての思考・判断・実践」にかかわる観点について，学校として重点化した内容を踏まえ，育てようとする資質や能力などに即し，より具体的に定めることも考えられる。

特別支援学校（知的障害）小学部における特別活動の記録については，小学校及び特別支援学校（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由又は病弱）小学部における特別活動の記録に関する考え方を参考としながら文章で記述する。

### 5 自立活動の記録

特別支援学校小学部における自立活動の記録については，個別の指導計画を踏まえ，以下の事項等を記入する。

- ① 指導の目標，指導内容，指導の結果の概要に関すること
- ② 障害の状態等に変化が見られた場合，その状況に関すること
- ③ 障害の状態を把握するため又は自立活動の成果を評価するために検査を行った場合，その検査結果に関すること

## 6 行動の記録

小学校及び特別支援学校（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由又は病弱）小学部における行動の記録については，各教科，道徳，外国語活動，総合的な学習の時間，特別活動やその他学校生活全体にわたって認められる児童の行動について，設置者は，小学校学習指導要領等の総則及び道徳の目標や内容，内容の取扱いで重点化を図ることとしている事項等を踏まえて示している別紙5を参考にして，項目を適切に設定する。また，各学校において，自らの教育目標に沿って項目を追加できるようにする。

各学校における評価に当たっては，各項目の趣旨に照らして十分満足できる状況にあると判断される場合に，○印を記入する。

特別支援学校（知的障害）小学部における行動の記録については，小学校及び特別支援学校（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由又は病弱）小学部における行動の記録に関する考え方を参考としながら文章で記述する。

## 7 総合所見及び指導上参考となる諸事項

小学校等における総合所見及び指導上参考となる諸事項については，児童の成長の状況を総合的にとらえるため，以下の事項等を文章で記述する。

- ① 各教科や外国語活動，総合的な学習の時間の学習に関する所見
- ② 特別活動に関する事実及び所見
- ③ 行動に関する所見
- ④ 児童の特徴・特技，学校内外におけるボランティア活動など社会奉仕体験活動，表彰を受けた行為や活動，学力について標準化された検査の結果等指導上参考となる諸事項
- ⑤ 児童の成長の状況にかかわる総合的な所見

記入に際しては，児童の優れている点や長所，進歩の状況などを取り上げることに留意する。ただし，児童の努力を要する点などについても，その後の指導において特に配慮を要するものがあれば記入する。

また，学級・学年など集団の中での相対的な位置付けに関する情報も，必要に応じ，記入する。

さらに，通級による指導を受けている児童については，通級による指導を受けた学校名，通級による指導の授業時数，指導期間，指導の内容や結果等を記入する。通級による指導の対象となっていない児童生徒で，教育上特別な支援を必要とする場合については，必要に応じ，効果があったと考えられる指導方法や配慮事項を記入する。

特別支援学校小学部においては，交流及び共同学習を実施している児童について，その相手先の学校名や学級名，実施期間，実施した内容や成果等を記入する。

## 8 入学時の障害の状態

特別支援学校小学部における入学時の障害の状態について，障害の種類及び程度等を記入する。

## 9 出欠の記録

以下の事項を記入する。

### (1) 授業日数

児童の属する学年について授業を実施した年間の総日数を記入する。学校保健安全法第20条の規定に基づき、臨時に、学校の全部又は学年の全部の休業を行うこととした日数は授業日数には含めない。

この授業日数は、原則として、同一学年のすべての児童につき同日数とすることが適当である。ただし、転学又は退学等をした児童については、転学のため学校を去った日又は退学等をした日までの授業日数を記入し、転入学又は編入学等をした児童については、転入学又は編入学等をした日以後の授業日数を記入する。

### (2) 出席停止・忌引等の日数

以下の日数を合算して記入する。

- ① 学校教育法第35条による出席停止日数、学校保健安全法第19条による出席停止日数及び感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第19条、第20条、第26条及び第46条による入院の場合の日数
- ② 学校保健安全法第20条により、臨時に学年の中の一部の休業を行った場合の日数
- ③ 忌引日数
- ④ 非常変災等児童又は保護者の責任に帰すことのできない事由で欠席した場合などで、校長が出席しなくてもよいと認めた日数
- ⑤ その他教育上特に必要な場合で、校長が出席しなくてもよいと認めた日数

### (3) 出席しなければならない日数

授業日数から出席停止・忌引等の日数を差し引いた日数を記入する。

### (4) 欠席日数

出席しなければならない日数のうち病気又はその他の事故で児童が欠席した日数を記入する。

### (5) 出席日数

出席しなければならない日数から欠席日数を差し引いた日数を記入する。

なお、学校の教育活動の一環として児童が運動や文化などにかかわる行事等に参加したものと校長が認める場合には、指導要録の出欠の記録においては出席扱いとすることができる。

また、平成15年5月16日付け15文科初第255号「不登校への対応の在り方について」や平成17年7月6日付け17文科初第437号「不登校児童生徒が自宅においてIT等を活用した学習活動を行った場合の指導要録上の出欠の取扱い等について」に沿って、不登校の児童が適応指導教室等学校外の施設において相談・指導を受け、又は自宅においてI

I T等を活用した学習活動を行ったとき，そのことが当該児童の学校復帰のために適切であると校長が認める場合には，指導要録の出欠の記録においては出席扱いとすることができる。この場合には，出席日数の内数として出席扱いとした日数並びに児童が通所若しくは入所した学校外の施設名又は自宅においてI T等を活用した学習活動によることを記入する。

(6) 備考

出席停止・忌引等の日数に関する特記事項，欠席理由の主なもの，遅刻，早退等の状況その他の出欠に関する特記事項等を記入する。

## 各学校における指導要録の保存，送付等に当たっての配慮事項

- 1 児童生徒が転学する場合は，学校教育法施行規則第24条第2項に基づいて進学元の校長等から送付を受けた指導要録の抄本又は写しを，同条第3項の規定により転学先の校長へ送付することとされており，この場合において，進学元（小学校にあっては，保育所及び認定こども園を含む。）から送付を受けた指導要録の抄本又は写しについては，進学してきた児童生徒が在学する期間保存すること。
- 2 配偶者からの暴力の被害者と同居する児童生徒については，転学した児童生徒の指導要録の記述を通じて転学先の学校名や所在地等の情報が配偶者（加害者）に伝わることを懸念される場合がある。

このような特別の事情がある場合には，平成21年7月13日付け21生参学第7号「配偶者からの暴力の被害者の子どもの就学について」に沿って，配偶者からの暴力の被害者と同居する児童生徒の転学先や居住地等の情報については，各地方公共団体の個人情報保護条例等に則り，配偶者暴力相談支援センターや福祉部局等との連携を図りながら，厳重に管理すること。

## 各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨

## 1. 各教科の学習の記録

## 国語

## (1) 評価の観点及びその趣旨

## &lt;小学校 国語&gt;

観点	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、国語を尊重しようとする。	相手や目的、意図に応じ、話したり聞いたり話し合ったりし、自分の考えを明確にしている。	相手や目的、意図に応じ、文章を書き、自分の考えを明確にしている。	目的に応じ、内容をとらえながら本や文章を読み、自分の考えを明確にしている。	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やきまり、文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに、文字を正しく整えて書いている。

## (2) 学年別の評価の観点の趣旨

## &lt;小学校 国語&gt;

観点 学年	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
第1学年及び第2学年	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、進んで話したり聞いたり書いたり、楽しんで読書したりしようとする。	相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話したり、大事なことを落とさないように聞いたり、話題に沿って話し合ったりしている。	経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書いている。	書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりして本や文章を読んでいる。	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やきまり、文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに、文字を正しく丁寧に書いている。
第3学年及び第4学年	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、工夫をしながら話したり聞いたり書いたり、幅広く読書したりしようとする。	相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話したり、話の中心に気を付けて聞いたり、進行に沿って話し合ったりしている。	相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書いている。	目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら本や文章を読んでいる。	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やきまり、文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに、文字を形や大きさ、配列、筆圧などに注意して書いている。
第5学年及び第6学年	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、適切に話したり聞いたり書いたり、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする。	目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話したり、相手の意図をつかみながら聞いたり、計画的に話し合ったりしている。	目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果をj考えて文章に書いている。	目的に応じ、内容や要旨をとらえながら本や文章を読んでいる。	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やきまり、文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに、文字を書く目的や用紙全体との関係、点画のつながりなどに注意して書いている。

## 社会

(1) 評価の観点及びその趣旨

### ＜小学校 社会＞

観 点	社会的事象への関心・ 意欲・態度	社会的な思考・判断・ 表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
趣 旨	社会的事象に関心をもち、それを意欲的に調べ、社会の一員として自覚をもってよりよい社会を考えようとする。	社会的事象から学習問題を見いだして追究し、社会的事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。	社会的事象を的確に観察、調査したり、各種の資料を効果的に活用したりして、必要な情報をまとめている。	社会的事象の様子や働き、特色及び相互の関連を具体的に理解している。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

### ＜小学校 社会＞

観 点  学年	社会的事象への関心・ 意欲・態度	社会的な思考・判断・ 表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
第 3 学 年 及 び 第 4 学 年	地域における社会的事象に関心を持ち、それを意欲的に調べ、地域社会の一員としての自覚をもつとともに、地域社会に対する誇りと愛情をもとうとする。	地域における社会的事象から学習問題を見いだして追究し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて思考・判断したことを適切に表現している。	地域における社会的事象を的確に観察、調査したり、地図や各種の具体的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。	地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るための諸活動、地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きを理解している。
第 5 学 年	我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象に関心を持ち、それを意欲的に調べ、国土の環境の保全と自然災害の防止の重要性、産業の発展や社会の情報化の進展に関心を深めるとともに、国土に対する愛情をもとうとする。	我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象から学習問題を見いだして追究し、社会的事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。	我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象を的確に調査したり、地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。	我が国の国土と産業の様子、国土の環境や産業と国民生活との関連を理解している。
第 6 学 年	我が国の歴史と政治及び国際社会における我が国の役割に関心を持ち、それを意欲的に調べ、我が国の歴史や伝統を大切にし国を愛する心情をもつとともに、平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であることの自覚をもとうとする。	我が国の歴史と政治及び国際理解に関する社会的事象から学習問題を見いだして追究し、社会的事象の意味についてより広い視野から思考・判断したことを適切に表現している。	我が国の歴史と政治及び国際理解に関する社会的事象を的確に調査したり、地図や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。	国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産、日常生活における政治の働きと我が国の政治の考え方及び我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割を理解している。

## 算 数

(1) 評価の観点及びその趣旨

### ＜小学校 算数＞

観 点	算数への関心・意欲・ 態度	数学的な考え方	数量や図形についての 技能	数量や図形についての 知識・理解
趣 旨	数理的な事象に関心をもつとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする。	日常の事象を数理的にとらえ、見通しをもち筋道立てて考え表現したり、そのことから考えを深めたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。	数量や図形についての数学的な表現や処理にかかわる技能を身に付けている。	数量や図形についての豊かな感覚をもち、それらの意味や性質などについて理解している。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

### ＜小学校 算数＞

観 点  学年	算数への関心・意欲・ 態度	数学的な考え方	数量や図形についての 技能	数量や図形についての 知識・理解
第 1 学 年	数量や図形に親しみをもち、それらについて様々な経験をもととする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、数理的な処理に親しみ、考え表現したり工夫したりしている。	整数の計算をしたり、身の回りにある量の大きさを比較したり、図形を構成したり、数量の関係などを表したり読み取ったりするなどの技能を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数の意味と表し方及び整数の計算の意味を理解し、量、図形及び数量の関係についての理解の基礎となる経験を豊かにしている。
第 2 学 年	数量や図形に親しみをもち、それらについて様々な経験をもととするとともに、知識や技能などを進んで用いようとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、数理的な処理に親しみ、考え表現したり工夫したりしている。	整数の計算をしたり、長さや体積などを測定したり、図形を構成したり、数量の関係などを表したり読み取ったりするなどの技能を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数の意味と表し方、整数の計算の意味、長さや体積などの単位と測定の意味、図形の意味及び数量の関係などについて理解している。
第 3 学 年	数理的な事象に関心をもつとともに、知識や技能などの有用さ及び数量や図形の性質や関係を調べたり筋道を立てて考えたりすることのよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え表現したり、そのことから考えを深めたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。	整数などの計算をしたり、長さや重さなどを測定したり、図形を構成要素に着目して構成したり、数量の関係などを表したり読み取ったりするなどの技能を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数、小数及び分数の意味と表し方、計算の意味、長さや重さなどの単位と測定の意味、図形の意味及び数量の関係などについて理解している。
第 4 学 年	数理的な事象に関心をもつとともに、知識や技能などの有用さ及び数量や図形の性質や関係を調べたり筋道を立てて考えたりすることのよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え表現したり、そのことから考えを深めたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。	整数、小数及び分数の計算をしたり、図形の面積を求めたり、図形を構成要素の位置関係に着目して構成したり、数量の関係などを表したり調べたりするなどの技能を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数、小数及び分数の意味と表し方、計算の意味、面積などの単位と測定の意味、図形の意味及び数量の関係などについて理解している。

第5学年	<p>数理的な事象に関心をもつとともに、数量や図形の性質や関係などに着目して考察処理したり、論理的に考えたりすることのよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする。</p>	<p>数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、日常の事象について論理的に考え表現したり、そのことを基に発展的、統合的に考えたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。</p>	<p>小数や分数の計算をしたり、図形の面積や体積を求めたり、図形の性質を調べたり、数量の関係などを表したり調べたりするなどの技能を身に付けている。</p>	<p>数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数の性質、分数の意味、小数や分数の計算の意味、面積の公式、体積の単位と測定の意味、図形の意味や性質及び数量の関係などについて理解している。</p>
第6学年	<p>数理的な事象に関心をもつとともに、数量や図形の性質や関係などに着目して考察処理したり、論理的に考えたりすることのよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする。</p>	<p>数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、日常の事象について論理的に考え表現したり、そのことを基に発展的、統合的に考えたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。</p>	<p>分数の計算をしたり、図形の面積や体積を求めたり、図形を構成したり、数量の関係などを表したり調べたりするなどの技能を身に付けている。</p>	<p>数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、分数の計算の意味、体積の公式、速さの意味、図形の意味及び数量の関係などについて理解している。</p>

**理 科**

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 理科>

観 点	自然事象への関心・意 欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知 識・理解
趣 旨	自然に親しみ、意欲をもつて自然の事物・現象を調べる活動を行い、自然を愛するとともに生活に生かそうとする。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもつて事象を比較したり、関係付けたり、条件に着目したり、推論したりして調べることによって得られた結果を考察し表現して、問題を解決している。	自然の事物・現象を観察し、実験を計画的に実施し、器具や機器などを目的に応じて工夫して扱うとともに、それらの過程や結果を的確に記録している。	自然の事物・現象の性質や規則性、相互の関係などについて実感を伴って理解している。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

<小学校 理科>

観 点 学年	自然事象への関心・意 欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知 識・理解
第 3 学 年	自然の事物・現象に興味・関心をもつて追究し、生物を愛護するとともに、見いだした特性を生活に生かそうとする。	自然の事物・現象を比較しながら問題を見だし、差異点や共通点について考察し表現して、問題を解決している。	簡単な器具や材料を見付けたり、使ったり、作ったりして観察、実験やものづくりを行い、その過程や結果を分かりやすく記録している。	物の重さ、風やゴムの力並びに光、磁石の性質や働き及び電気を働かせたときの現象や、生物の成長のきまりや体のつくり、生物と環境とのかかわり、太陽と地面の様子などについて実感を伴って理解している。
第 4 学 年	自然の事物・現象に興味・関心をもつて追究し、生物を愛護するとともに、見いだした特性を生活に生かそうとする。	自然の事物・現象の変化とその要因とのかかわりに問題を見だし、変化と関係する要因について考察し表現して、問題を解決している。	簡単な器具や材料を見付けたり、使ったり、作ったりして観察、実験やものづくりを行い、その過程や結果を分かりやすく記録している。	空気や水の性質や働き、物の状態の変化、電気による現象や、人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境とのかかわり、気象現象、月や星の動きなどについて実感を伴って理解している。
第 5 学 年	自然の事物・現象を意欲的に追究し、生命を尊重するとともに、見いだしたきまりを生活に当てはめてみようとする。	自然の事物・現象の変化とその要因との関係に問題を見だし、条件に着目して計画的に追究し、量的変化や時間的变化について考察し表現して、問題を解決している。	問題解決に適した方法を工夫し、装置を組み立てたり使ったりして観察、実験やものづくりを行い、その過程や結果を的確に記録している。	物の溶け方、振り子の運動の規則性、電流の働きや、生命の連続性、流水の働き、気象現象の規則性などについて実感を伴って理解している。
第 6 学 年	自然の事物・現象を意欲的に追究し、生命を尊重するとともに、見いだしたきまりを生活に当てはめてみようとする。	自然の事物・現象の変化とその要因との関係に問題を見だし、推論しながら追究し、規則性や相互関係について考察し表現して、問題を解決している。	問題解決に適した方法を工夫し、装置を組み立てたり使ったりして観察、実験やものづくりを行い、その過程や結果を的確に記録している。	燃焼、水溶液の性質、この規則性及び電気による現象や、生物の体の働き、生物と環境とのかかわり、土地のつくりと変化のきまり、月の位置や特徴などについて実感を伴って理解している。

## 生活

(1) 評価の観点及びその趣旨

### <小学校 生活>

観 点	生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・ 表現	身近な環境や自分についての 気付き
趣 旨	身近な環境や自分自身に関心をもち、進んでそれらとかかわり、楽しく学習したり、生活したりしようとする。	具体的な活動や体験について、自分なりに考えたり、工夫したりして、それをすなおに表現している。	具体的な活動や体験によって、自分と身近な人、社会、自然とのかかわり及び自分自身のよさなどに気付いている。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

### <小学校 生活>

観 点 / 学 年	生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・ 表現	身近な環境や自分についての 気付き
第 1 学 年 及 び 第 2 学 年	身近な人、社会、自然及び自分自身に関心をもち、進んでそれらとかかわり、楽しく意欲的に学習したり、生活したりしようとする。	調べたり、育てたり、作ったりするなどの活動や学校、家庭、地域における自分の生活について、自分なりに考えたり、工夫したり、振り返ったりして、それをすなおに表現している。	具体的な活動や体験によって、学校、家庭、地域、公共物、身近な自然、動植物、自分の成長などの様子、それらと自分とのかかわり及び自分自身のよさに気付いている。

## 音 楽

(1) 評価の観点及びその趣旨

### <小学校 音楽>

観 点	音楽への関心・意欲・ 態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
趣 旨	音楽に親しみ、音や音楽に対する関心を持ち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	音楽表現をするための基礎的な技能を身に付け、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさなどを考え、味わって聴いている。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

### <小学校 音楽>

観 点 学年	音楽への関心・意欲・ 態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
第 1 学 年 及 び 第 2 学 年	楽しく音楽にかかわり、音や音楽に対する関心を持ち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いをもっている。	音楽表現をするための基礎的な技能を身に付け、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲や演奏の楽しさに気付き、味わって聴いている。
第 3 学 年 及 び 第 4 学 年	進んで音楽にかかわり、音や音楽に対する関心を持ち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	音楽表現をするための基礎的な技能を伸ばし、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさに気付き、味わって聴いている。
第 5 学 年 及 び 第 6 学 年	創造的に音楽にかかわり、音や音楽に対する関心を持ち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	音楽表現をするための基礎的な技能を高め、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさを理解し、味わって聴いている。

## 図画工作

(1) 評価の観点及びその趣旨

### <小学校 図画工作>

観点	造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
趣旨	自分の思いをもち、進んで表現や鑑賞の活動に取り組み、つくりだす喜びを味わおうとする。	感じたことや材料などを基に表したいことを思い付いたり、形や色、用途などを考えたりしている。	感覚や経験を生かしながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫している。	作品などの形や色などから、表現の面白さをとらえたり、よさや美しさを感じ取ったりしている。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

### <小学校 図画工作>

観点 学年	造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
第1学年及び第2学年	思いのままに表したり、作品などを見たりしながら、つくりだす喜びを味わおうとする。	感じたことや材料などを基に表したいことを思い付いたり、形や色、つくり方などを考えたりしている。	体全体の感覚を働かせながら材料や用具を使い、工夫して表している。	身の回りの作品などの形や色などから、面白さに気付いたり、楽しさを感じたりしている。
第3学年及び第4学年	自分の思いで表現したり、鑑賞したりしながら、つくりだす喜びを味わおうとする。	感じたことや見たこと、材料や場所などを基に表したいことを思い付いたり、形や色、用途などを考えたりしている。	手や体全体の感覚を働かせながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫している。	身近にある作品などの形や色などから、表現の感じの違いをとらえたり、よさや面白さを感じ取ったりしている。
第5学年及び第6学年	自分の思いをもって表現したり、鑑賞したりしながら、つくりだす喜びを味わおうとする。	感じたことや見たこと、材料や場所などの特徴を基に表したいことを思い付いたり、形や色、用途や構成などを考えたりしている。	感覚を働かせたり経験を生かしたりしながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、様々な表し方を工夫している。	親しみのある作品などの形や色などから、表現の意図や特徴をとらえたり、よさや美しさを感じ取ったりしている。

## 家 庭

(1) 評価の観点及びその趣旨

### <小学校 家庭>

観 点	家庭生活への関心・意 欲・態度	生活を創意工夫する能 力	生活の技能	家庭生活についての知 識・理解
趣 旨	衣食住や家族の生活などについて関心をもち、その大切さに気付き、家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとする。	家庭生活について見直し、身近な生活の課題を見付け、その解決を目指して生活をよりよくするために考え自分なりに工夫している。	日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。	日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

### <小学校 家庭>

観 点 学 年	家庭生活への関心・意 欲・態度	生活を創意工夫する能 力	生活の技能	家庭生活についての知 識・理解
第 5 学 年 及 び 第 6 学 年	自分の成長と衣食住や家族の生活などについて関心をもち、その大切さに気付き、家族の一員として家庭生活をよりよくするために進んで取り組み実践しようとする。	衣食住や家族の生活などについて見直し、課題を見付け、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために考えたり自分なりに工夫したりしている。	生活の自立の基礎として日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。	家庭生活を支えているものや大切さを理解し、日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

## 体 育

### (1) 評価の観点及びその趣旨

#### <小学校 体育>

観 点	運動や健康・安全への 関心・意欲・態度	運動や健康・安全につ いての思考・判断	運動の技能	健康・安全についての 知識・理解
趣 旨	運動に進んで取り組むとともに、友達と協力し、安全に気を付けようとする。また、身近な生活における健康・安全について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力に適した課題の解決を目指して、運動の仕方を工夫している。また、身近な生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断し、それらを表している。	運動を楽しく行うための基本的な動きや技能を身に付けている。	身近な生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

### (2) 学年別の評価の観点の趣旨

#### <小学校 体育>

観 点 学 年	運動や健康・安全への 関心・意欲・態度	運動や健康・安全につ いての思考・判断	運動の技能	健康・安全についての 知識・理解
第 1 学 年	運動に進んで取り組むとともに、だれとでも仲よく、健康・安全に留意しようとする。	運動の仕方を工夫している。	運動を楽しく行うための基本的な動きを身に付けている。	
第 2 学 年	運動に進んで取り組むとともに、だれとでも仲よく、健康・安全に留意しようとする。	運動の仕方を工夫している。	運動を楽しく行うための基本的な動きを身に付けている。	
第 3 学 年	運動に進んで取り組むとともに、きまりを守り互いに協力し、健康・安全に留意しようとする。さらに、健康な生活について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力に適した課題をもち、運動の仕方を工夫している。また、健康な生活について、課題の解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表している。	運動を楽しく行うための基本的な動きや技能を身に付けている。	健康な生活について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
第 4 学 年	運動に進んで取り組むとともに、きまりを守り互いに協力し、健康・安全に留意しようとする。さらに、体の発育・発達について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力に適した課題をもち、運動の仕方を工夫している。また、体の発育・発達について、課題の解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表している。	運動を楽しく行うための基本的な動きや技能を身に付けている。	体の発育・発達について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
第 5 学 年	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、進んで運動に取り組むとともに、協力、公正などの態度を身に付け、健康・安全に留意しようとする。さらに、心の健康やけがの防止について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力に適した課題の解決の仕方や運動の取り組み方を工夫している。また、心の健康やけがの防止について、課題の解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表している。	運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	心の健康やけがの防止について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

第6学年	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、進んで運動に取り組むとともに、協力、公正などの態度を身に付け、健康・安全に留意しようとする。さらに、病気の予防について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力に適した課題の解決の仕方や運動の取り組み方を工夫している。また、病気の予防について、課題の解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表している。	運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	病気の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
------	---	--	--------------------------	-----------------------------------

## 2. 外国語活動の記録

(1) 評価の観点及びその趣旨

### <小学校 外国語活動の記録>

観 点	コミュニケーションへの関心 ・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
趣 旨	コミュニケーションに関心をもち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。	活動で用いている外国語を聞いたり話したりしながら、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。	外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、言葉の面白さや豊かさ、多様なものの見方や考え方があることなどに気付いている。

### 3. 特別活動の記録

(1) 評価の観点及びその趣旨

#### <小学校 特別活動の記録>

観 点	集団活動や生活への関心・意 欲・態度	集団の一員としての思考・判断 ・実践	集団活動や生活についての知 識・理解
趣 旨	学級や学校の集団や自己の生活に関心を持ち、望ましい人間関係を築きながら、積極的に集団活動や自己の生活の充実と向上に取り組もうとする。	集団の一員としての役割を自覚し、望ましい人間関係を築きながら、集団活動や自己の生活の充実と向上について考え、判断し、自己を生かして実践している。	集団活動の意義、よりよい生活を築くために集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方、自己の健全な生活の在り方などについて理解している。

## 4. 行動の記録

(1) 評価項目及びその趣旨

### <小学校 行動の記録>

項目	学 年	趣 旨
基本的な生活習慣	第1学年及び第2学年	安全に気を付け、時間を守り、物を大切にし、気持ちのよいあいさつを行い、規則正しい生活をする。
	第3学年及び第4学年	安全に努め、物や時間を有効に使い、礼儀正しく節度のある生活をする。
	第5学年及び第6学年	自他の安全に努め、礼儀正しく行動し、節度を守り節制に心掛ける。
健康・体力の向上	第1学年及び第2学年	心身の健康に気を付け、進んで運動をし、元気に生活をする。
	第3学年及び第4学年	心身の健康に気を付け、運動をする習慣を身に付け、元気に生活をする。
	第5学年及び第6学年	心身の健康の保持増進と体力の向上に努め、元気に生活をする。
自主・自律	第1学年及び第2学年	よいと思うことは進んで行い、最後までがんばる。
	第3学年及び第4学年	自らの目標をもって進んで行い、最後までねばり強くやり通す。
	第5学年及び第6学年	夢や希望をもってより高い目標を立て、当面の課題に根気強く取り組み、努力する。
責任感	第1学年及び第2学年	自分でやらなければならないことは、しっかりと行う。
	第3学年及び第4学年	自分の言動に責任をもち、課せられた役割を誠意をもって行う。
	第5学年及び第6学年	自分の役割と責任を自覚し、信頼される行動をする。
創意工夫	第1学年及び第2学年	自分で進んで考え、工夫しながら取り組む。
	第3学年及び第4学年	自分でよく考え、課題意識をもって工夫し取り組む。
	第5学年及び第6学年	進んで新しい考えや方法を求め、工夫して生活をよりよくしようとする。
思いやり・協力	第1学年及び第2学年	身近にいる人々に温かい心で接し、親切にし、助け合う。
	第3学年及び第4学年	相手の気持ちや立場を理解して思いやり、仲よく助け合う。
	第5学年及び第6学年	思いやりと感謝の心をもち、異なる意見や立場を尊重し、力を合わせて集団生活の向上に努める。
生命尊重・自然愛護	第1学年及び第2学年	生きているものに優しく接し、自然に親しむ。
	第3学年及び第4学年	自他の生命を大切にし、生命や自然のすばらしさに感動する。
	第5学年及び第6学年	自他の生命を大切にし、自然を愛護する。
勤労・奉仕	第1学年及び第2学年	手伝いや仕事を進んで行う。
	第3学年及び第4学年	働くことの大切さを知り、進んで働くようにする。
	第5学年及び第6学年	働くことの意義を理解し、人や社会の役に立つことを考え、進んで仕事や奉仕活動をする。
公正・公平	第1学年及び第2学年	自分の好き嫌いや利害にとらわれなくて行動する。
	第3学年及び第4学年	相手の立場に立って公正・公平に行動する。
	第5学年及び第6学年	だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく、正義を大切にし、公正・公平に行動する。
公共心・公德心	第1学年及び第2学年	約束やきまりを守って生活し、みんなが使うものを大切に使う。
	第3学年及び第4学年	約束や社会のきまりを守って公德を大切にし、人に迷惑をかけないように心掛け、のびのびと生活する。
	第5学年及び第6学年	規則を尊重し、公德を大切にするとともに、郷土や我が国の伝統と文化を大切にし、学校や人々の役に立つことを進んで行う。

# 小学校児童指導要録（参考様式）

様式1（学籍に関する記録）

区分	学年	1	2	3	4	5	6
学級							
整理番号							

学 籍 の 記 録							
児 童	ふりがな			性 別	入学・編入学等	平成 年 月 日 第 1 学年 入学 第 学年 編入学	
	氏名						
	生年月日	平成 年 月 日生		転入学	平成 年 月 日 第 学年 転入学		
	現住所						
保 護 者	ふりがな			転学・退学等	(平成 年 月 日) 平成 年 月 日		
	氏名						
	現住所			卒業	平成 年 月 日		
入学前の経歴				進学先			
学 校 名 及 び 所 在 地 (分校名・所在地等)							
年 度	平成 年度		平成 年度		平成 年度		
区分 / 学年	1		2		3		
校長氏名印							
学級担任者 氏名印							
年 度	平成 年度		平成 年度		平成 年度		
区分 / 学年	4		5		6		
校長氏名印							
学級担任者 氏名印							



様式2 (指導に関する記録)

児童氏名	学校名	区分	学年	1	2	3	4	5	6
		学級							
		整理番号							

各教科の学習の記録										外国語活動の記録								
I 観点別学習状況										観点		学年		5		6		
教科	観点	学年	1	2	3	4	5	6										
国語	国語への関心・意欲・態度									コミュニケーションへの関心・意欲・態度								
	話す・聞く能力																	
	書く能力																	
	読む能力																	
	言語についての知識・理解・技能																	
社会	社会的事象への関心・意欲・態度									外国語への慣れ親しみ								
	社会的な思考・判断・表現																	
	観察・資料活用の技能																	
	社会的事象についての知識・理解																	
算数	算数への関心・意欲・態度									総合的な学習の時間の記録								
	数学的な考え方																	
	数量や図形についての技能									学年	学習活動	観点	評価					
	数量や図形についての知識・理解																	
理科	自然事象への関心・意欲・態度									3								
	科学的な思考・表現																	
	観察・実験の技能																	
	自然事象についての知識・理解																	
生活	生活への関心・意欲・態度									4								
	活動や体験についての思考・表現																	
	身近な環境や自分についての気付き																	
音楽	音楽への関心・意欲・態度									5								
	音楽表現の創意工夫																	
	音楽表現の技能																	
	鑑賞の能力																	
図画工作	造形への関心・意欲・態度									6								
	発想や構想の能力																	
	創造的な技能																	
	鑑賞の能力																	
家庭	家庭生活への関心・意欲・態度									6								
	生活を創意工夫する能力																	
	生活の技能																	
	家庭生活についての知識・理解																	
体育	運動や健康・安全への関心・意欲・態度									特別活動の記録								
	運動や健康・安全についての思考・判断																	
	運動の技能									内容	観点	学年	1	2	3	4	5	6
健康・安全についての知識・理解									学級活動									
II 評 定										児童会活動								
学年	教科	国語	社会	算数	理科	音楽	図画工作	家庭	体育	クラブ活動								
3																		
4																		
5										学校行事								
6																		

児 童 氏 名

行 動 の 記 録															
項 目	学 年	行 動						項 目	学 年	記 録					
		1	2	3	4	5	6			1	2	3	4	5	6
基本的な生活習慣								思いやり・協力							
健康・体力の向上								生命尊重・自然愛護							
自主・自律								勤労・奉仕							
責任感								公正・公平							
創意工夫								公共心・公德心							

**総 合 所 見 及 び 指 導 上 参 考 と な る 諸 事 項**

第 1 学 年		第 4 学 年	
第 2 学 年		第 5 学 年	
第 3 学 年		第 6 学 年	

**出 欠 の 記 録**

区 分 学 年	授 業 日 数	出 席 停 止 ・ 忌 引 等 の 日 数	出 席 し な け れ ば な ら ぬ 日 数	欠 席 日 数	出 席 日 数	備 考
2						
3						
4						
5						
6						